

「市民満足度調査」

集計・分析結果報告書

平成23年6月

千 曲 市

目次

1. 調査の概要

- 1 調査の目的
- 2 調査方法
- 3 調査表の配布及び回収結果
- 4 集計結果の取り扱いについて

2. 回答者の属性

- 1 性別
- 2 年齢
- 3 職業
- 4 居住区域
- 5 居住年数
- 6 住みやすさについて
- 7 今後の居留意向

3. 調査の結果

- 1 市政への関心
- 2 市政への満足度と重要度
- 3 市政への要望
- 4 市政に対する不満
- 5 「協働のまちづくり」について
- 6 「議会本会議」について
- 7 「市の広報活動」について
- 8 まちづくり自由意見

1. 調査の概要

1 調査の目的

平成 19 年 4 月に策定した「千曲市総合計画」に掲げた 32 項目の達成方針について、市民の皆さんがどの項目を重要と考えているのか、また、現状に対する各項目の満足度はどの程度かをお聴きし、今後の市政運営に役立てるため「市民満足度調査」を平成 20 年度より実施しています。

平成 21 年度より行政評価（施策評価）に、市民満足度調査の結果を絡めて評価しています。

2 調査方法

- (1) 調査対象 満 18 歳以上の市民
- (2) 標本数 2,000 人
- (3) 調査区域 千曲市全域
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送方式（料金受取人払いの返信用封筒を添えて郵送）
- (6) 調査期日 平成 23 年 5 月 11 日～平成 23 年 6 月 30 日

3 調査票の配付及び回収結果

- (1) 調査票配付数 2,000 票
- (2) 有効回収数 590 票
- (3) 有効回収率 29.5%

前回（平成 22 年度）配布及び回収結果

- (1) 調査票配布数 2,000 票
- (2) 有効回収数 652 票
- (3) 有効回収率 32.6%

4 集計結果の取り扱いについて

- (1) 各項目の集計結果は百分率で表示し、個々の項目はそれぞれ少数第 2 位を四捨五入して算出した。したがって、比率の合計が必ずしも 100%にならないことがある。
- (2) 「18、19 歳」の回答者数が極端に少ない為、集計結果が必ずしも目的に対して正しく反映されているとは限らない点もあるが、参考として表示するものとする。

2. 回答者の属性

(1) 性別

性別では、「男性」が44.4%、「女性」が54.6%であった。

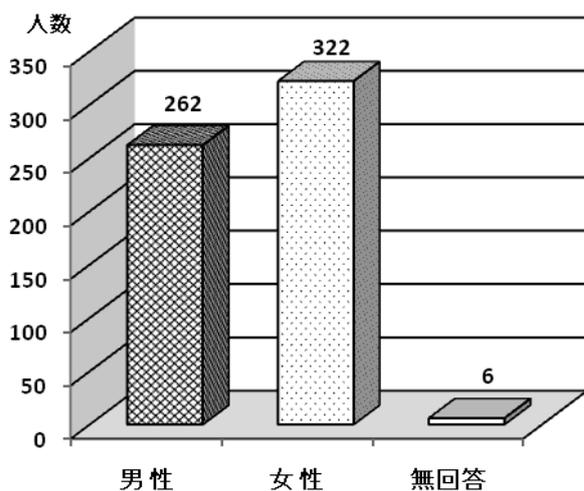


表 1-1-1 性別回答数

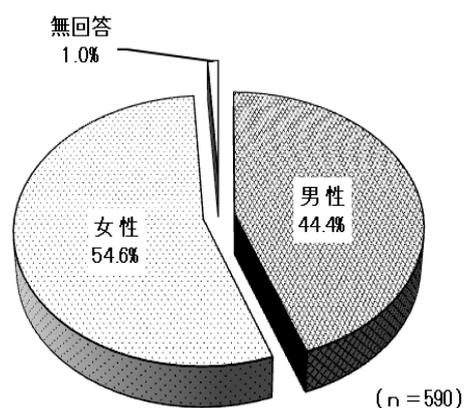


表 1-1-2 性別割合

(2) 年齢

年齢別では、「60～69歳」が25.4%、「70歳以上」が18.5%、「50～59歳」が16.9%となっており、高年齢層が多く、60歳以上の回答者がほぼ半数を占めている。

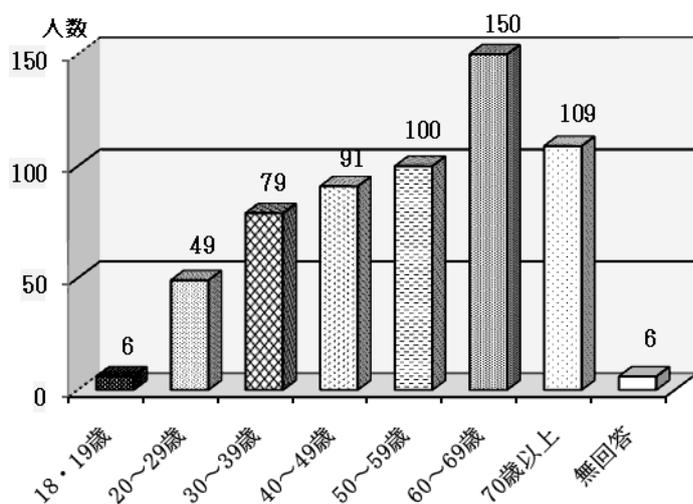


表 1-2-1 年齢別回答数

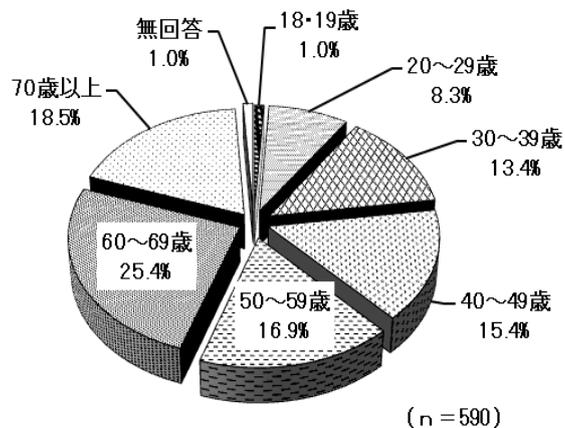


表 1-2-2 年齢別割合

性別による年代別の比率は、男女ともに同じ傾向を示し「60～69歳」が最も多く、29歳以下は約10%である。

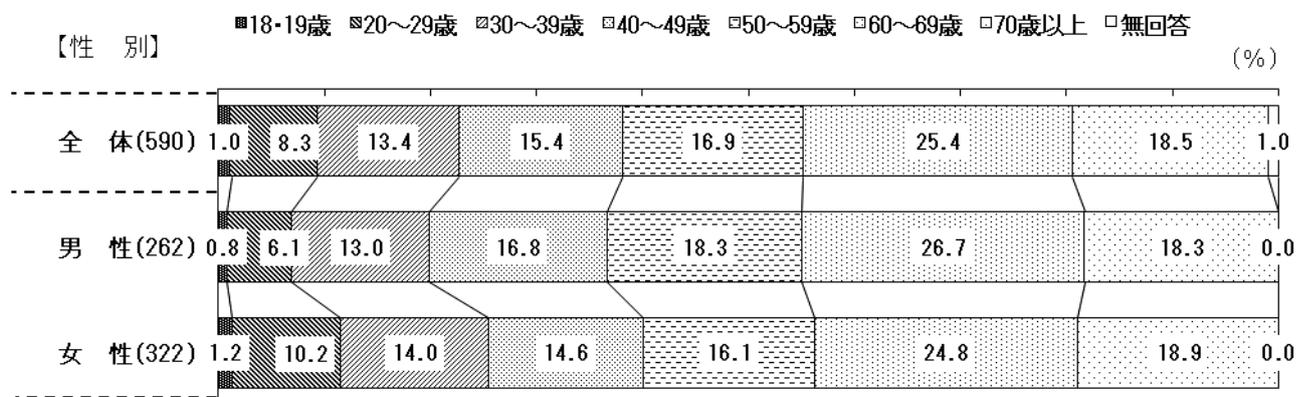


表 1-2-3 性別による年代比率

(3) 職業

職業別では、「専業主婦・主夫・無職(38.2)」が最も多く、次いで「会社員(28.1%)」、「自営業(商工サービス業ほか)(9.0%)」となっている。

形態別では、〈農林水産業〉と〈商工サービス業ほか〉を合わせた“自営業”は13.4%、「会社員」、「公務員」、「団体職員」を合わせた“勤め人”は35.4%、「専業主婦・主夫、無職」は38.2%となっている。

平成22年調査結果と比較すると、各職業ともほぼ同じ割合となっている。

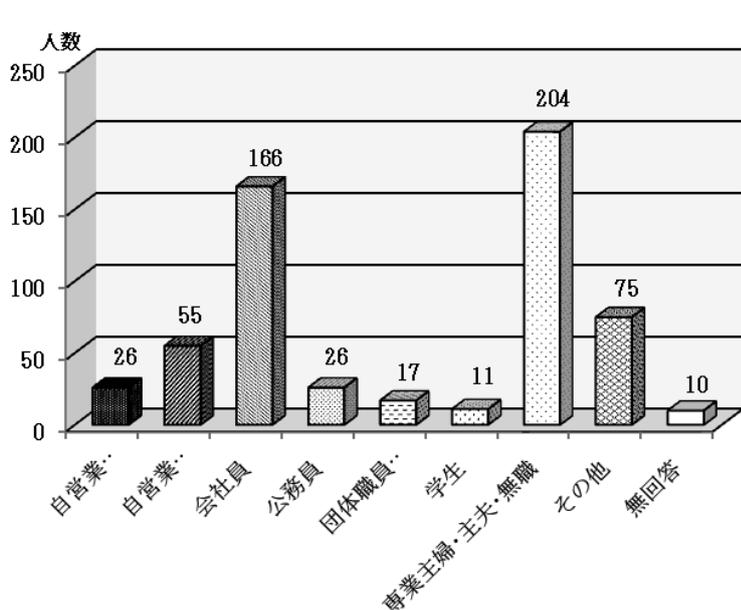


表 1-3-1 職業別回答数

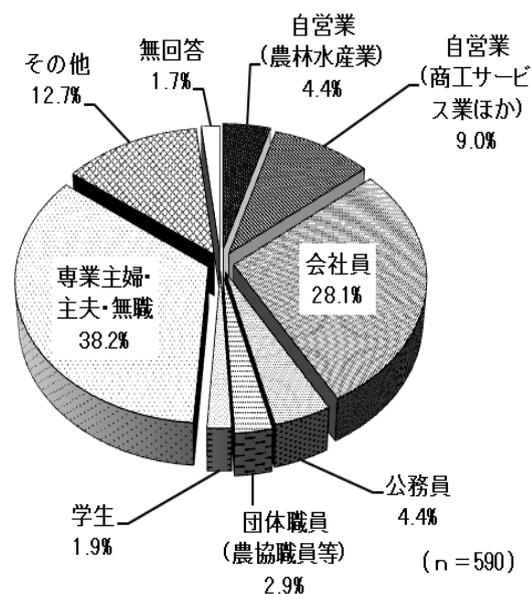


表 1-3-2 職業別割合

(4) 居住区域

居住区域別では、「埴生小学校区(17.6%)」が最も多く、「更級小学校区(5.6%)」が最も少ない。

しかし、埴生小学校区、更級小学校区、上山田小学校区を除く 6 小学校区の回答率の差はあまりない。

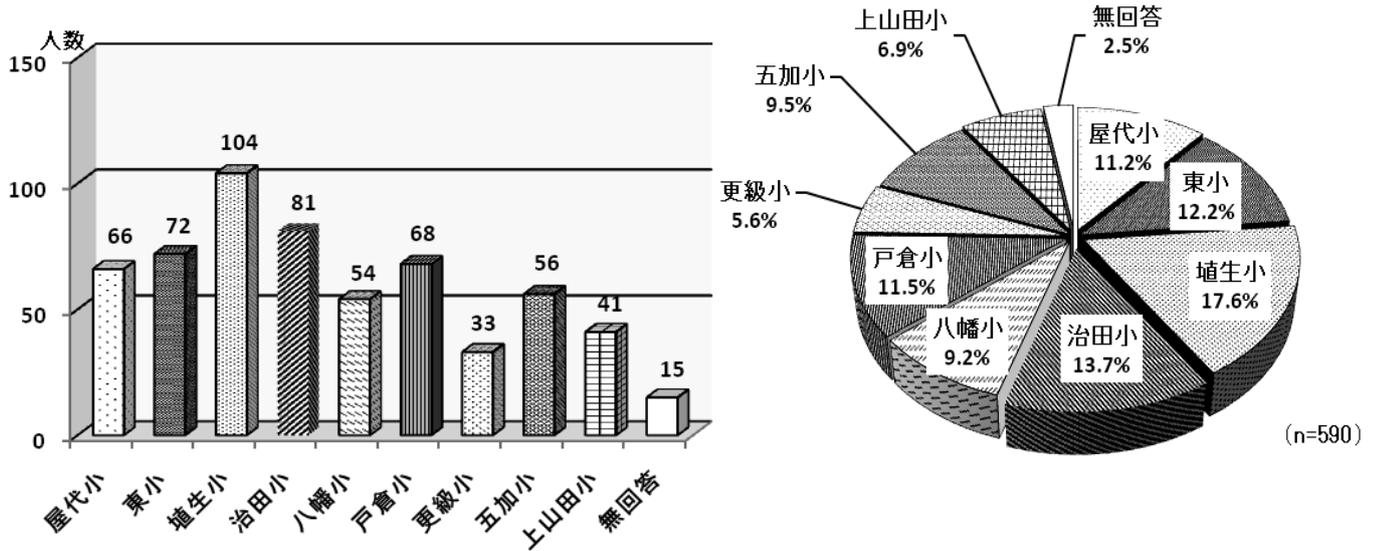


表 1-4-1 居住区域別回答数

表 1-4-2 居住区域別割合

【参考】

～通学区域～

屋代小学校	大字屋代、大字粟佐
東小学校	大字雨宮、大字土口、大字生萱、大字森、大字倉科
埴生小学校	大字寂蒔、大字鑄物師屋、大字打沢、大字小島、大字桜堂、 大字杭瀬下、杭瀬下一・二・三・四・五・六丁目、大字新田、大字中
治田小学校	大字稻荷山、大字野高場、大字桑原、大字八幡のうち中原区
八幡小学校	大字八幡（中原区を除く。）
戸倉小学校	大字磯部、大字戸倉、大字戸倉温泉、大字若宮のうち字八王子、 大字上徳間のうち今井町区
更級小学校	大字若宮（字八王子を除く。）、大字羽尾、大字須坂
五加小学校	大字上徳間（今井町区を除く。）、大字内川、大字千本柳、大字小船山
上山田小学校	大字力石、大字新山、大字上山田、上山田温泉一・二・三・四丁目

(5) 居住年数

居住年数別では、「30年以上(61.5%)」が最も多く約6割を占めている。「5年未満(4.2%)」、「5～10年未満(4.2%)」が最も少なく10年未満の新たな居住者は1割に満たない状況である。平成22年調査結果と比較すると、「30年以上」は5.4%減少、「20～30年未満」は6.5%増加である。「5～10年未満」、「10～20年未満」は、いずれもわずかながら減少している。

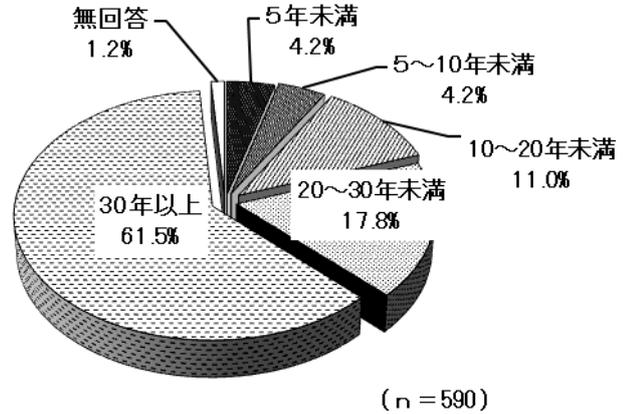
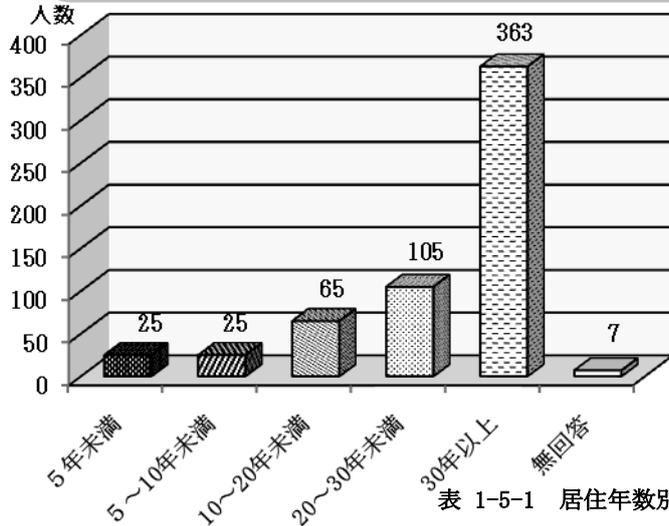


表 1-5-2 居住年数別割合

【居住区域でみる居住年数】

どの小学校区も居住年数「30年以上」が約6割以上を占めている。以下「20～30年未満」、「10～20年未満」である。しかし、「戸倉小学校区」と「更級小学校区」では、「10～20年未満」を「20～30年未満」を上まわっている。

「屋代小学校区」の5年未満の割合(9.1%)が他小学校区とは異なり、新しい居住者(5年未満)の回答者が多かった。

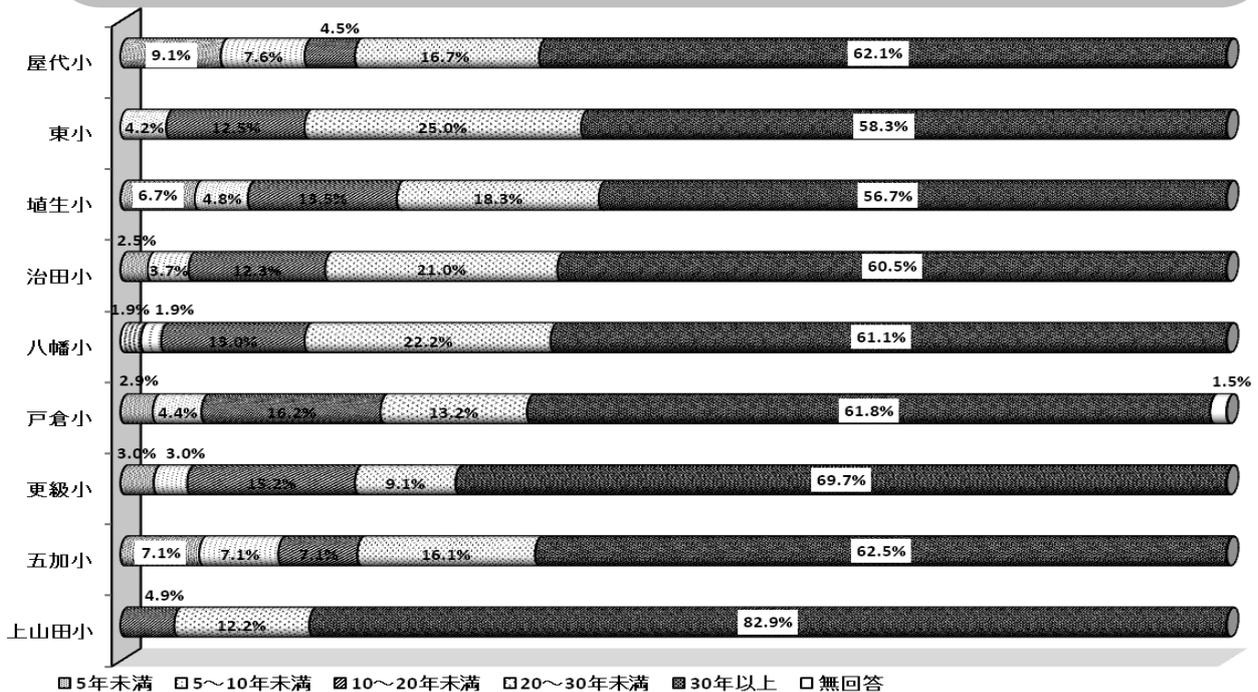
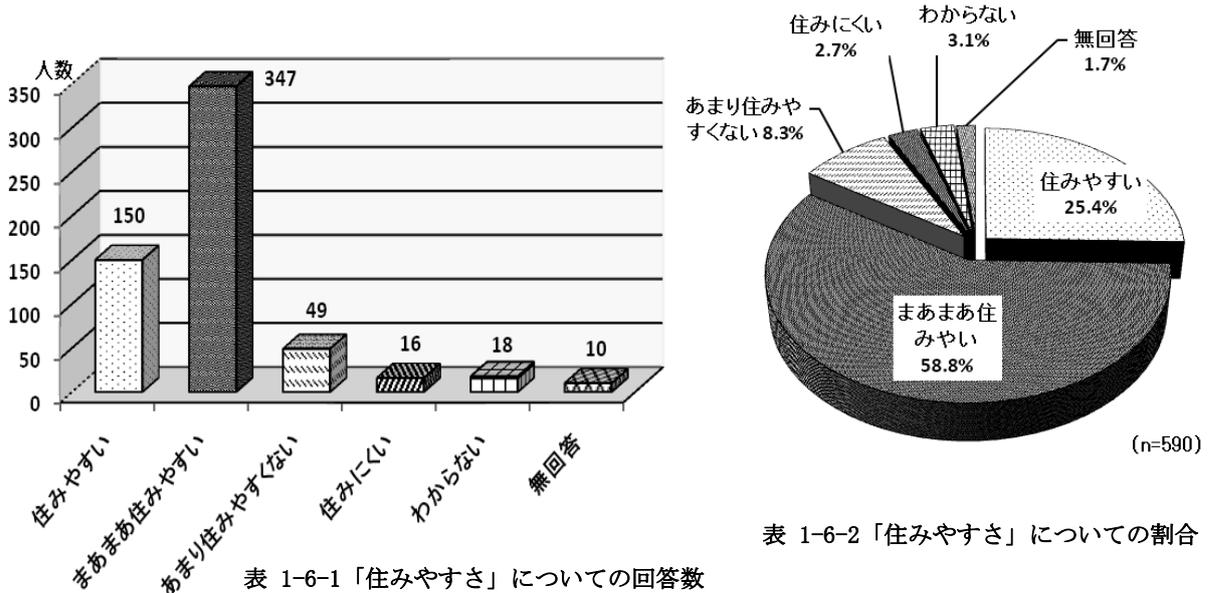


表 1-5-3 居住区域で見る居住年数の割合

(6) 住みやすさについて

住みやすさについては、「住みやすい(25.4%)」と「まあまあ住みやすい(58.8%)」の2つを合わせた“住みやすい(84.2%)”が8割を超えている。「あまり住みやすくない(8.3%)」と「住みにくい(2.7%)」の2つを合わせた“住みにくい(11.0%)”は約1割である。

平成22年調査結果と比較すると、住みやすいが+13.7%、まあまあ住みやすいが-4.5%、あまり住みやすくないが-5.2%、住みにくいが-1.0%となっている。



【居住年数別にみた住みやすさについて】

各居住年数とも「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」の2つを合わせた“住みやすい”が約8割であった。

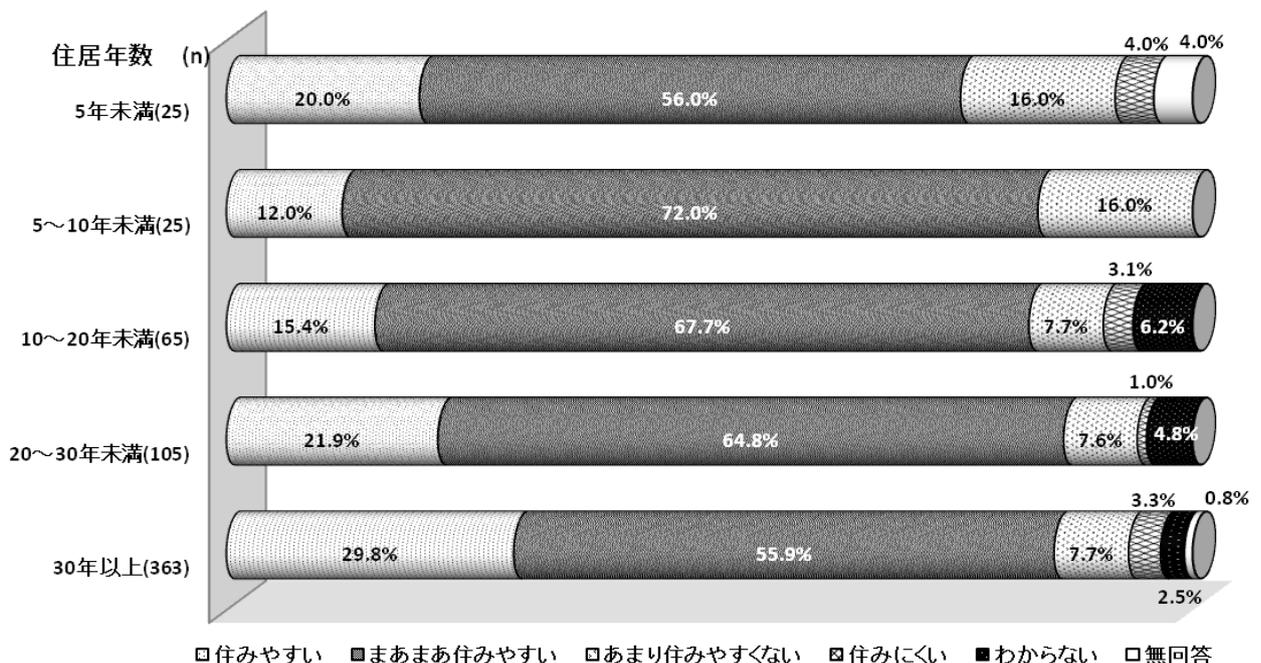


表 1-6-3 居住年数別「住みやすさ」についての割合

【居住地域別でみた住みやすさについて】

「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」の2つを合わせた“住みやすい”がほとんどの居住地域で約8割であったが、「更級小学校区(69.7%)」「上山田小学校区(75.7%)」については8割以下であった。

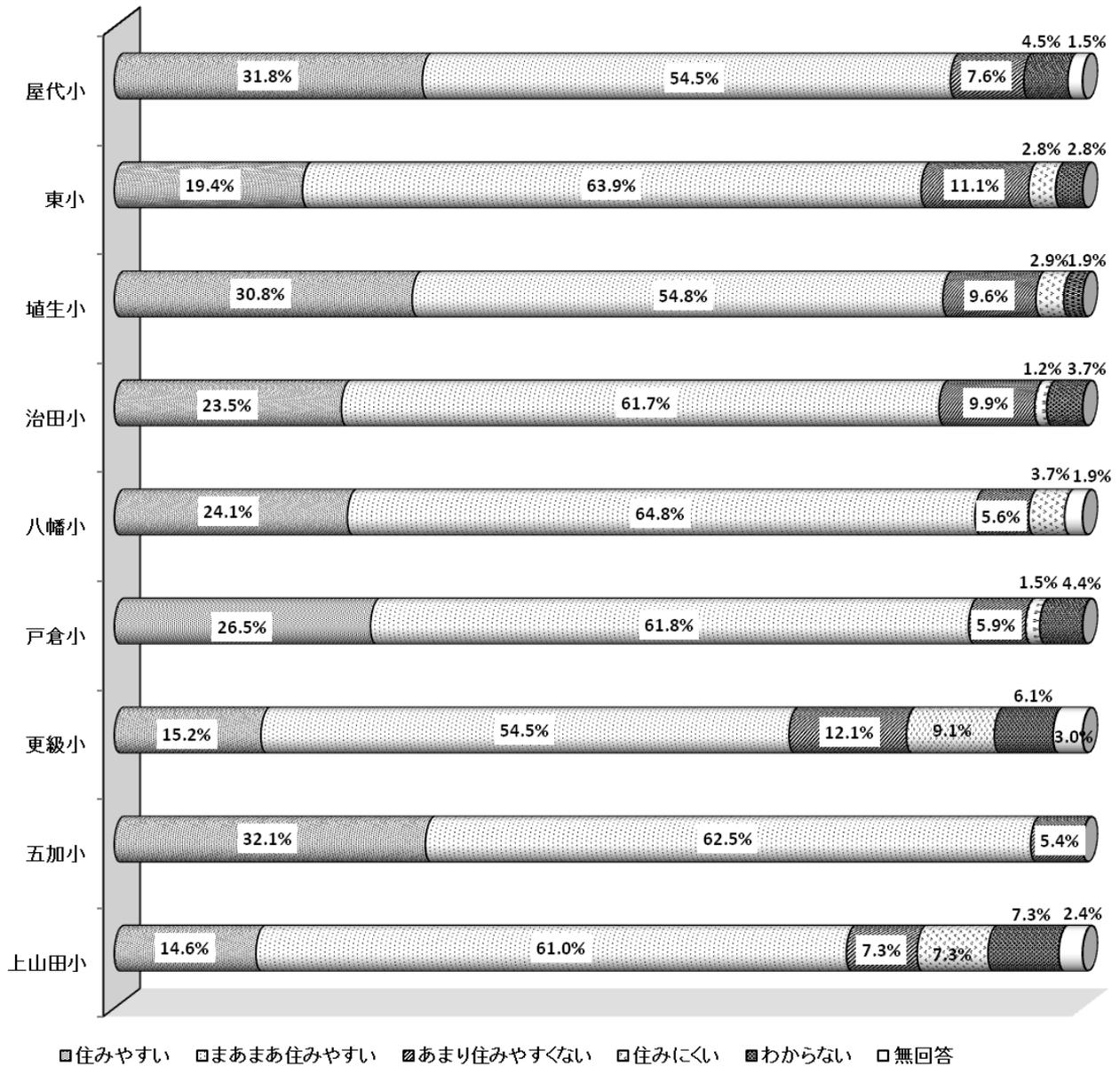


表 1-6-4 地域別「住みやすさ」についての割合

(7) 今後の居留意向

今後の居留意向は、「住み続けたい(75.1%)」が最も多く、「市外に転出する予定(0.7%)」が最も少ない。

「住み続けたい(75.1%)」と「出来れば市内の他地域に転居したい(4.4%)」を合わせると、回答者の約8割が、千曲市での居留意向を持っていることがうかがえる。

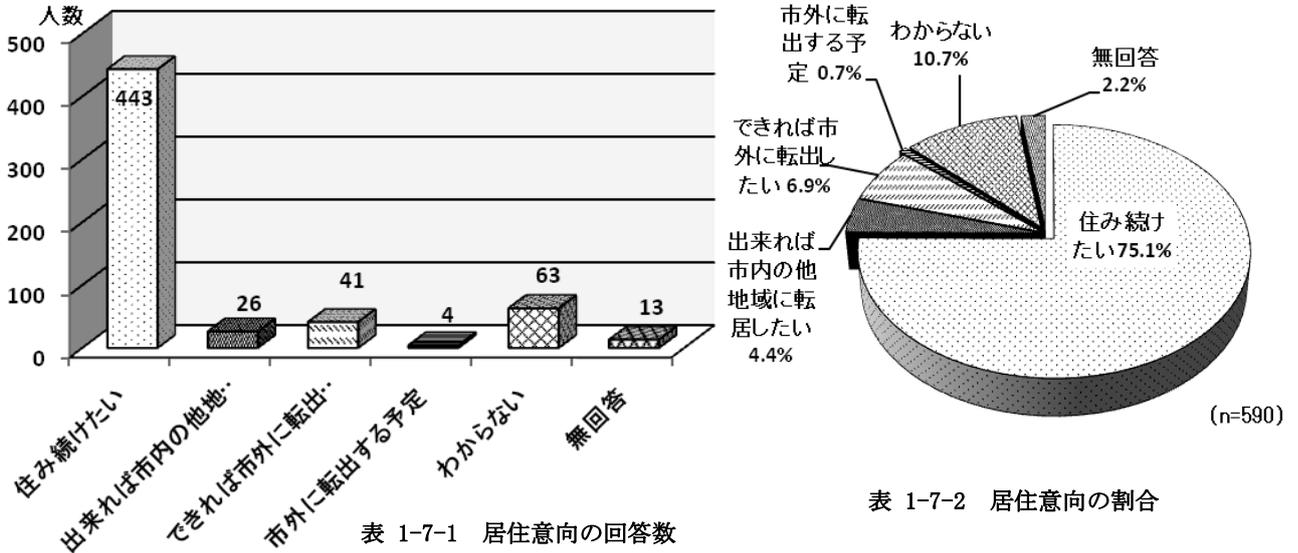


表 1-7-1 居留意向の回答数

表 1-7-2 居留意向の割合

【居住年数別の居留意向】

各居住年数とも「住み続けたい」が最も割合が高い。しかし、居住年数が低くなるにつれて「住み続けたい」の割合が低下している。「30年以上(82.9%)」、「20～30年未満(66.7%)」、「10～20年未満(66.2%)」、「5～10年未満(60.0%)」、「5年未満(52.0%)」

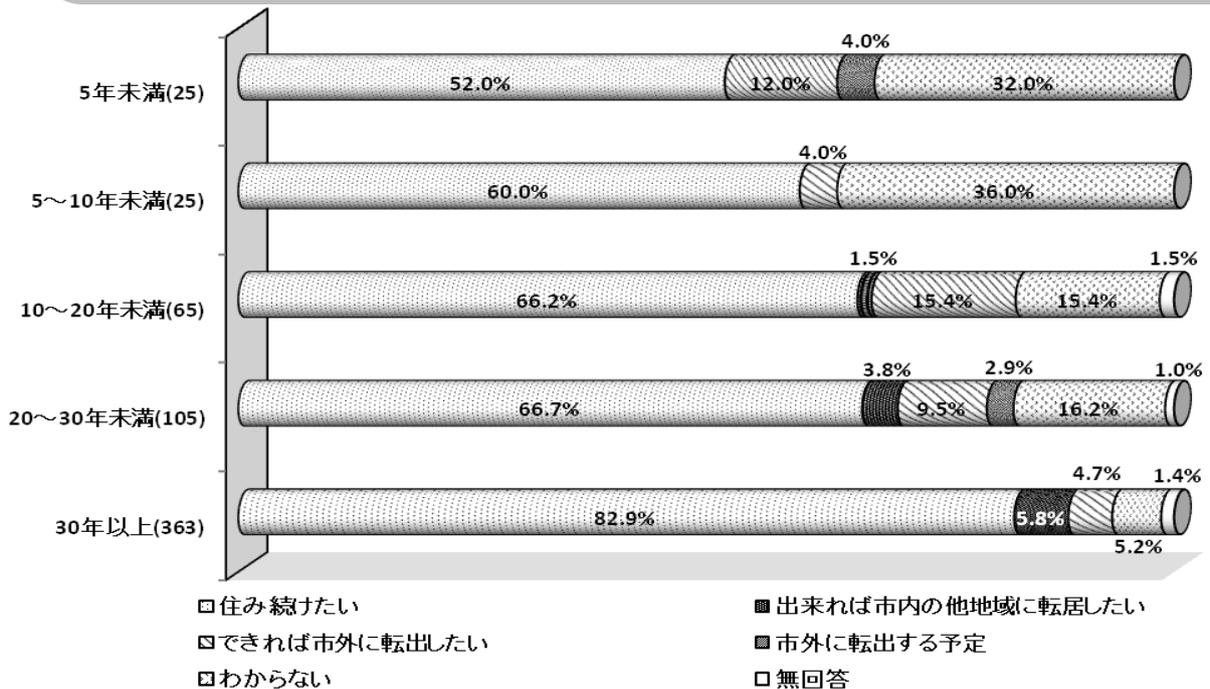


表 1-7-3 居住年数別居留意向の割合

【居住地域別の居住意向】

各居住地域とも「住み続けたい」が最も割合が高い。「住み続けたい」と「出来れば市内の他地域に転居したい」を合わせると、回答者の約8割が千曲市での居住意向を持っていることがうかがえる。

しかし、「更級小学校区」では居住意向が約6割で他地域への転出を3割が希望している。

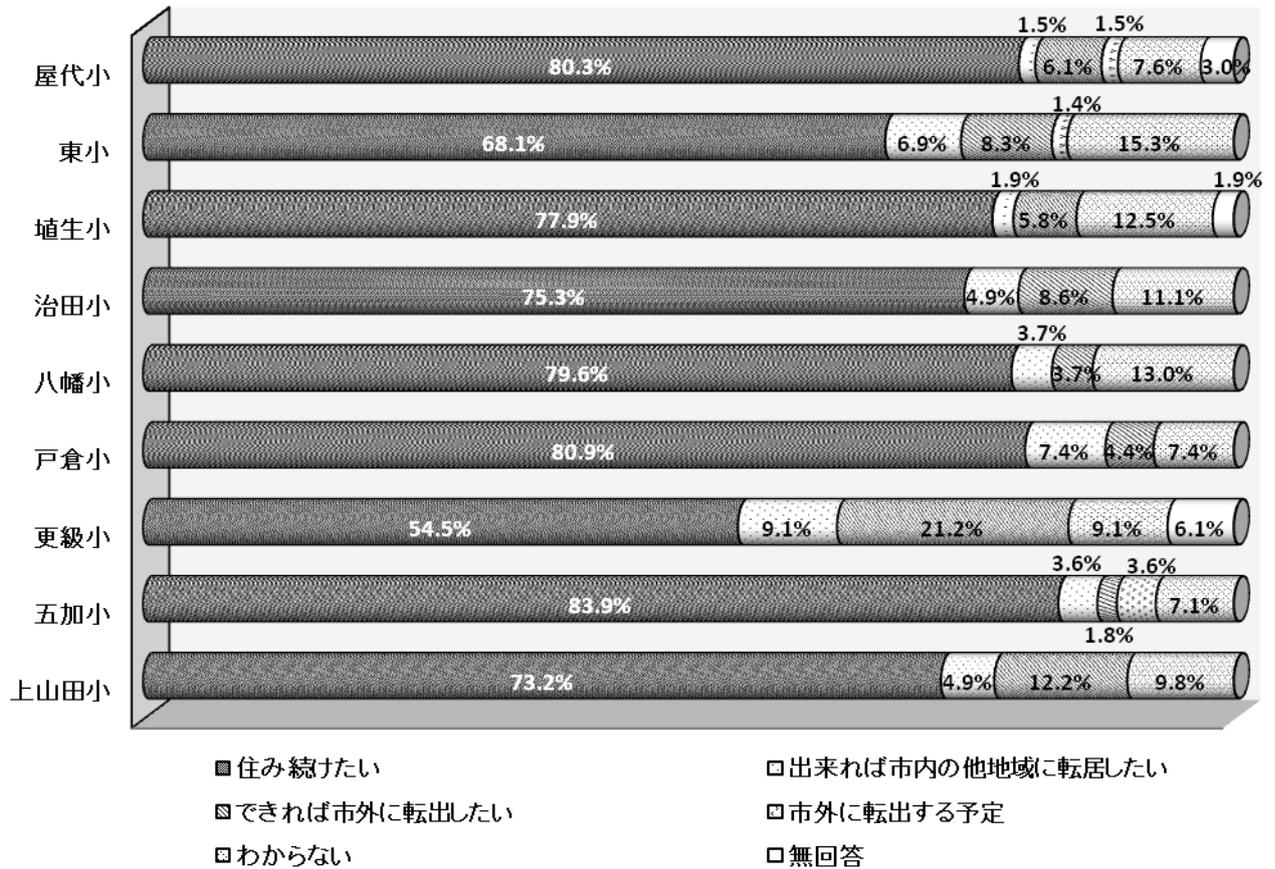
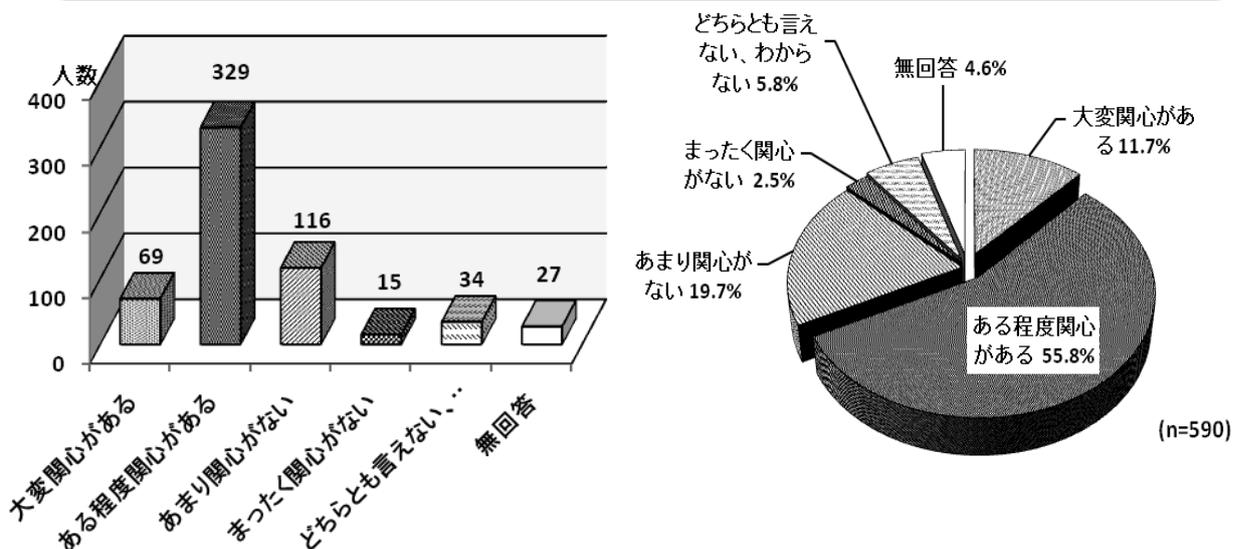


表 1-7-4 地域別居住意向の割合

3. 調査の結果

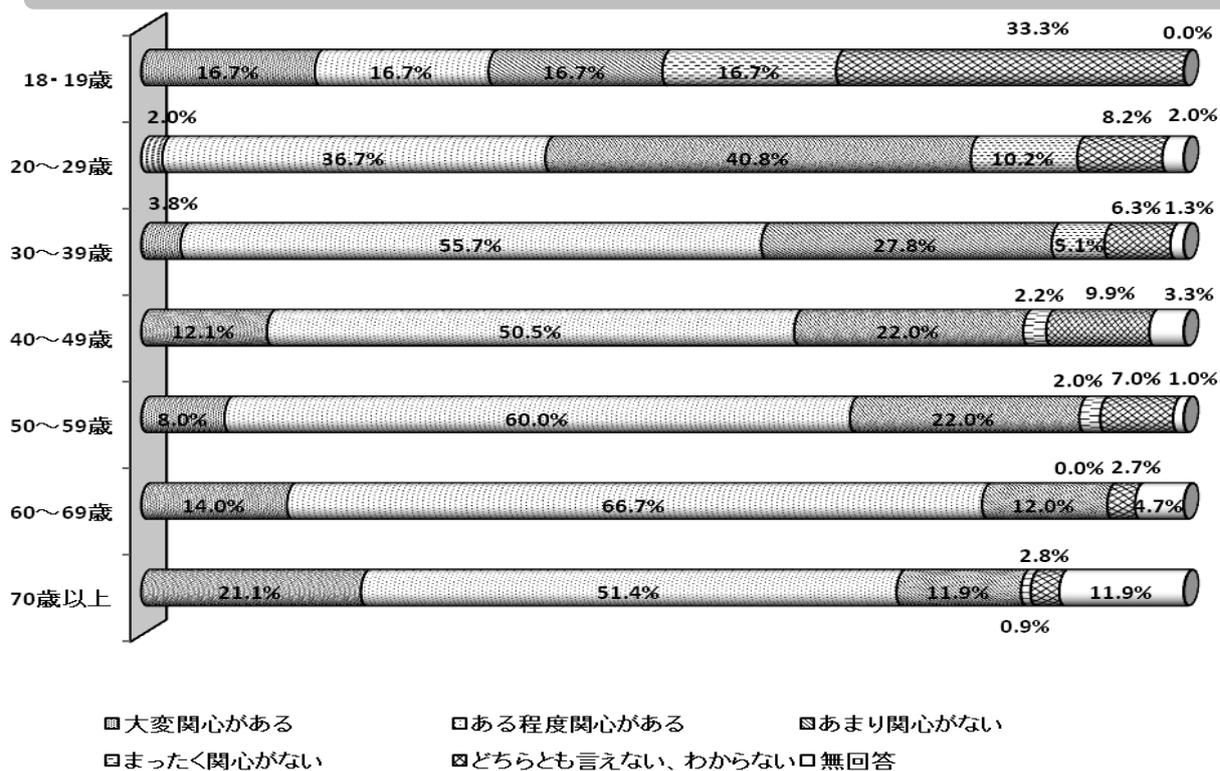
(1) 市政への関心

「ある程度関心がある(55.8%)」、「あまり関心がない(19.7%)」、「大変関心がある(11.7%)」の順となった。
 「ある程度関心がある」、「大変関心がある(11.7%)」の2つを合わせた「関心がある」は67.5%となり、6割のみなさんが市政への関心があるという結果になった。



【年代別の市政への関心】

若い年代ほど市政への関心が低下している。



(2) 市政への満足度と重要度

問 2-2 以下の項目は、「総合計画に掲げた32の達成方針」とその目標が達成された状態を示しています。

それぞれの項目について、「千曲市にとって重要か」、「目標が達成された状態と比較して現状は満足しているか」、あなたのお考えに1つ○をつけてください

<市政にとっての重要度>

「重要である」の割合が高いのは、「保健・医療(72.5%)」、「上下水道(70.3%)」、「安全・安心(64.6%)」、「ごみ処理(62.9%)」であり、6割を超えている。次いで「教育(57.1%)」、「健康づくり(56.6%)」、「移住・定住(56.4%)」、「広域行政(55.8%)」、「地球環境保全(54.4%)」、「行政経営(52.0%)」の順となっている。

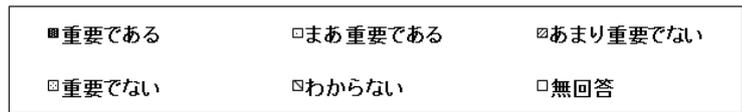
一方、重要度の低い項目では、「国際交流(16.9%)」の割合が最も低く、次いで「情報コミュニケーション(24.2%)」、「男女共同参画(27.8%)」、「生涯学習・スポーツ・文化芸術(28.0%)」の順となっている。

<市政への重要度の意識変化>

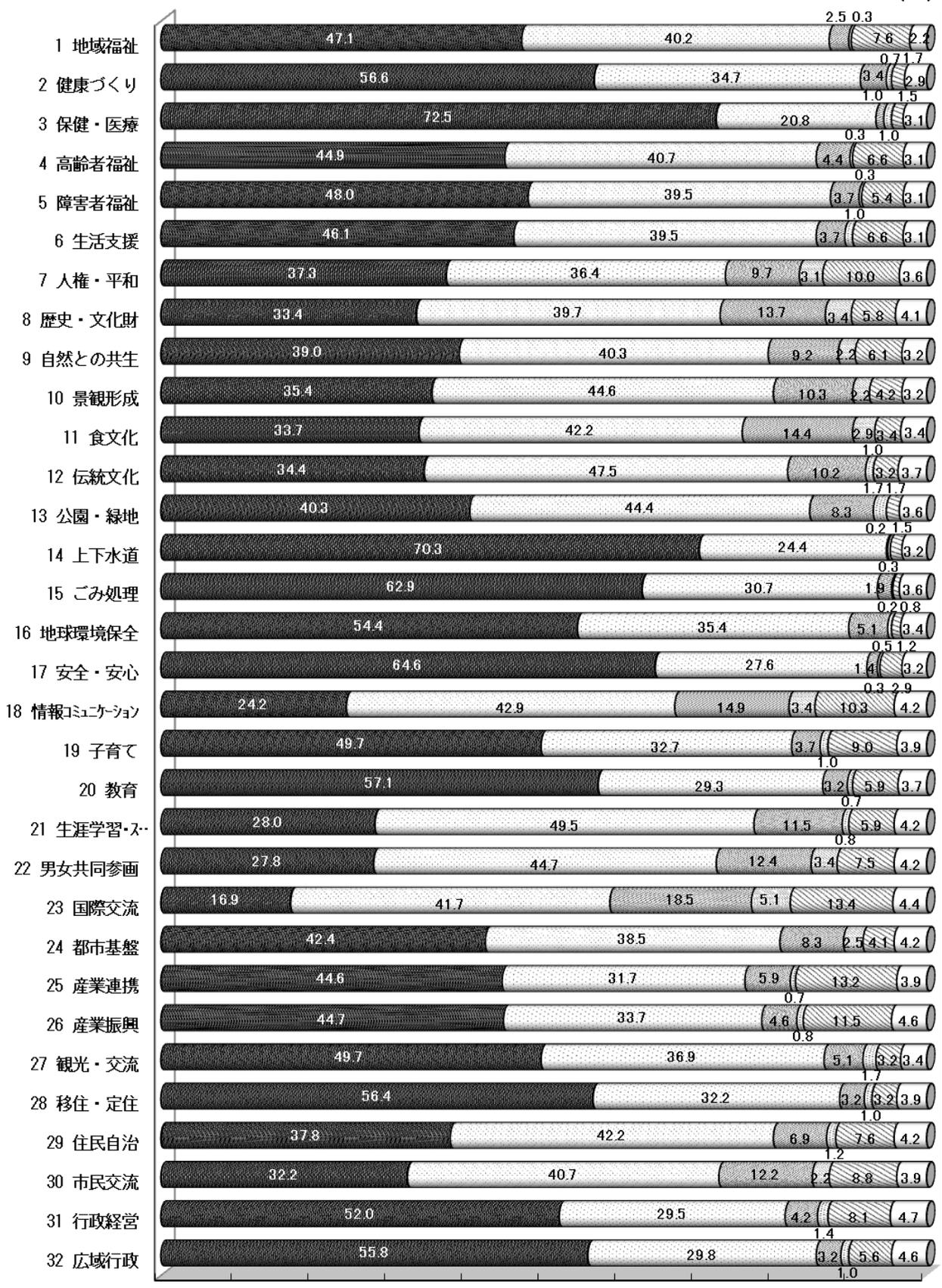
市政への重要度についての平成22年調査結果との比較は、“重要”の割合が増加しているのは「産業連携(+4.0%)」、「市民交流(+4.0%)」、「情報コミュニケーション(+3.9%)」、「食文化(+3.3%)」、「住民自治(+3.3%)」などとなっている。

一方、割合が減少しているのは、「健康づくり(-9.8%)」、「子育て(-3.8%)」、「自然との共生(-2.6%)」、「都市基盤(-2.5%)」、「行政経営(-1.7%)」などとなっている。

< 市政にとっての重要度 >



(n=590)



<重要度の平均スコア>

32項目の市政にとっての重要度について、「重要である」に+10点、「まあ重要である」に+5点、「あまり重要でない」に-5点、「重要でない」に-10点の点数を与え、平均スコアを求めた。これによると平均スコアの最大は+10点、最小は-10点であり点数が大きいほど重要度が高いことになる。

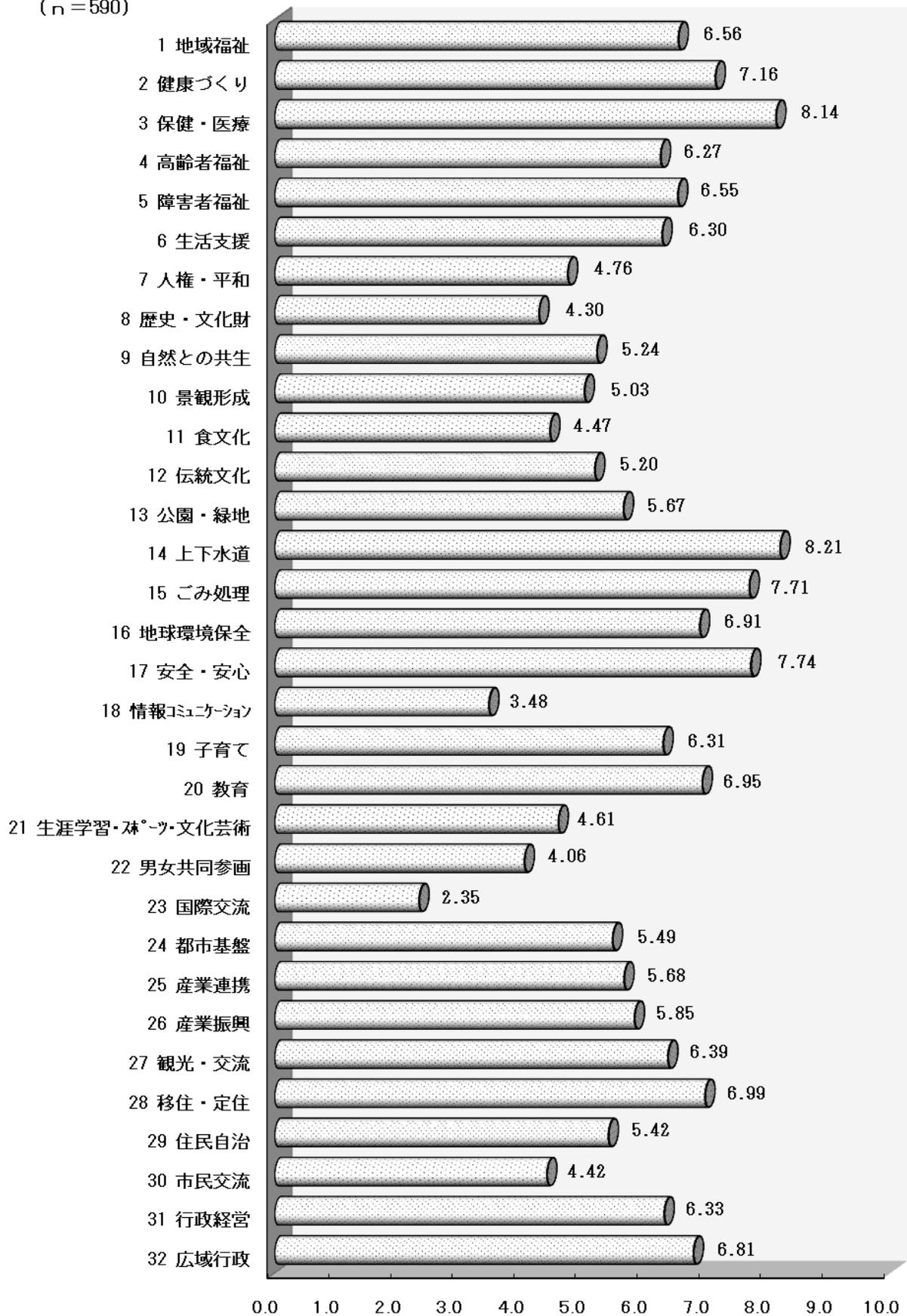
平均スコアが最も高いのは、「上下水道(8.21)」である。次いで「保健・医療(8.14)」、「安全・安心(7.74)」、「ごみ処理(7.71)」、「健康づくり(7.16)」などの順となっている。

平均スコアが最も低いのは、「国際交流(2.35)」である。次いで「情報コミュニケーション(3.48)」、「男女共同参画(4.06)」、「歴史・文化財(4.30)」、「市民交流(4.42)」などの順となっている。また、32項目全体の平均スコアは5.86であった。(前年度の平均スコアは、5.42)

平成22年調査結果とのランキング比較(15頁参照)において、「上下水道(2位から1位)」、「保健・医療(1位から2位)」、「安心・安全(4位から3位)」、「ごみ処理(3位から4位)」で上位4項目は順位に変動があったものの、上位の5項目は同じであった。

ランキングが上昇したのは、「移住・定住(9位から6位)」、「地域福祉(13位から10位)」などである。一方、ランキングが下降したのは、「広域行政(6位から9位)」、「子育て(10位から14位)」などとなっている。

<重要度の平均スコア>
(n=590)



<重要度の平均スコアランキング>

ランク			項目	ポイント数		
H23 (今回)	順位 変動	H22 (前回)		H23 (今回)	H22 (前回)	差
1	↑	2	14 上下水道	8.21 P	7.94 P	0.27
2	↓	1	3 保健・医療	8.14 P	8.06 P	0.08
3	↑	4	17 安全・安心	7.74 P	7.24 P	0.50
4	↓	3	15 ごみ処理	7.71 P	7.52 P	0.19
5	→	5	2 健康づくり	7.16 P	6.84 P	0.32
6	↑	9	28 移住・定住	6.99 P	6.52 P	0.47
7	→	7	20 教育	6.95 P	6.64 P	0.31
8	→	8	16 地球環境保全	6.91 P	6.59 P	0.32
9	↓	6	32 広域行政	6.81 P	6.66 P	0.15
10	↑	13	1 地域福祉	6.56 P	5.83 P	0.73
11	→	11	5 障害者福祉	6.55 P	6.37 P	0.18
12	↑	15	27 観光・交流	6.39 P	5.71 P	0.68
13	↓	12	31 行政経営	6.33 P	6.33 P	0.00
14	↓	10	19 子育て	6.31 P	6.50 P	△ 0.19
15	↓	14	6 生活支援	6.30 P	5.75 P	0.55
16	→	16	4 高齢者福祉	6.27 P	5.66 P	0.61
17	↑	18	26 産業振興	5.85 P	5.33 P	0.52
18	↑	22	25 産業連携	5.68 P	4.75 P	0.93
19	→	19	13 公園・緑地	5.67 P	5.33 P	0.34
20	↓	17	24 都市基盤	5.49 P	5.58 P	△ 0.09
21	→	21	29 住民自治	5.42 P	4.80 P	0.62
22	↓	20	9 自然との共生	5.24 P	4.98 P	0.26
23	↑	24	12 伝統文化	5.20 P	4.46 P	0.74
24	↓	23	10 景観形成	5.03 P	4.58 P	0.45
25	→	25	7 人権・平和	4.76 P	4.18 P	0.58
26	→	26	21 生涯学習・スポーツ・文化芸術	4.61 P	3.84 P	0.77
27	↑	29	11 食文化	4.47 P	3.70 P	0.77
28	→	28	30 市民交流	4.42 P	3.75 P	0.67
29	↑	30	8 歴史・文化財	4.30 P	3.70 P	0.60
30	↓	27	22 男女共同参画	4.06 P	3.80 P	0.26
31	→	31	18 情報コミュニケーション	3.48 P	2.67 P	0.81
32	→	32	23 国際交流	2.35 P	1.74 P	0.61

< 市政への満足度 >

「満足している」と「まあ満足している」の2つを合わせた“満足”の割合が最も高いのは、「上下水道(65.9%)」である。次いで「地球環境保全(60.0%)」、「健康づくり(58.8%)」、「食文化(56.5%)」、「ごみ処理(54.9%)」、「公園・緑地(54.3%)」、「歴史・文化財(53.2%)」などの順となっている。

「あまり満足していない」と「満足していない」の2つを合わせた“不満”の割合が最も高いのは、「観光・交流(60.8%)」である。次いで「都市基盤(58.5%)」、「移住・定住(56.1%)」、「保健・医療(52.6%)」などの順となっている。

< 市政への満足度の意識変化 >

市政への満足度についての平成22年調査結果との比較は、“満足”の割合が増加しているのは「地域福祉(+11.1%)」、「生活支援(+8.0%)」、「健康づくり(+6.8%)」、「ごみ処理(+6.3%)」などとなっている。

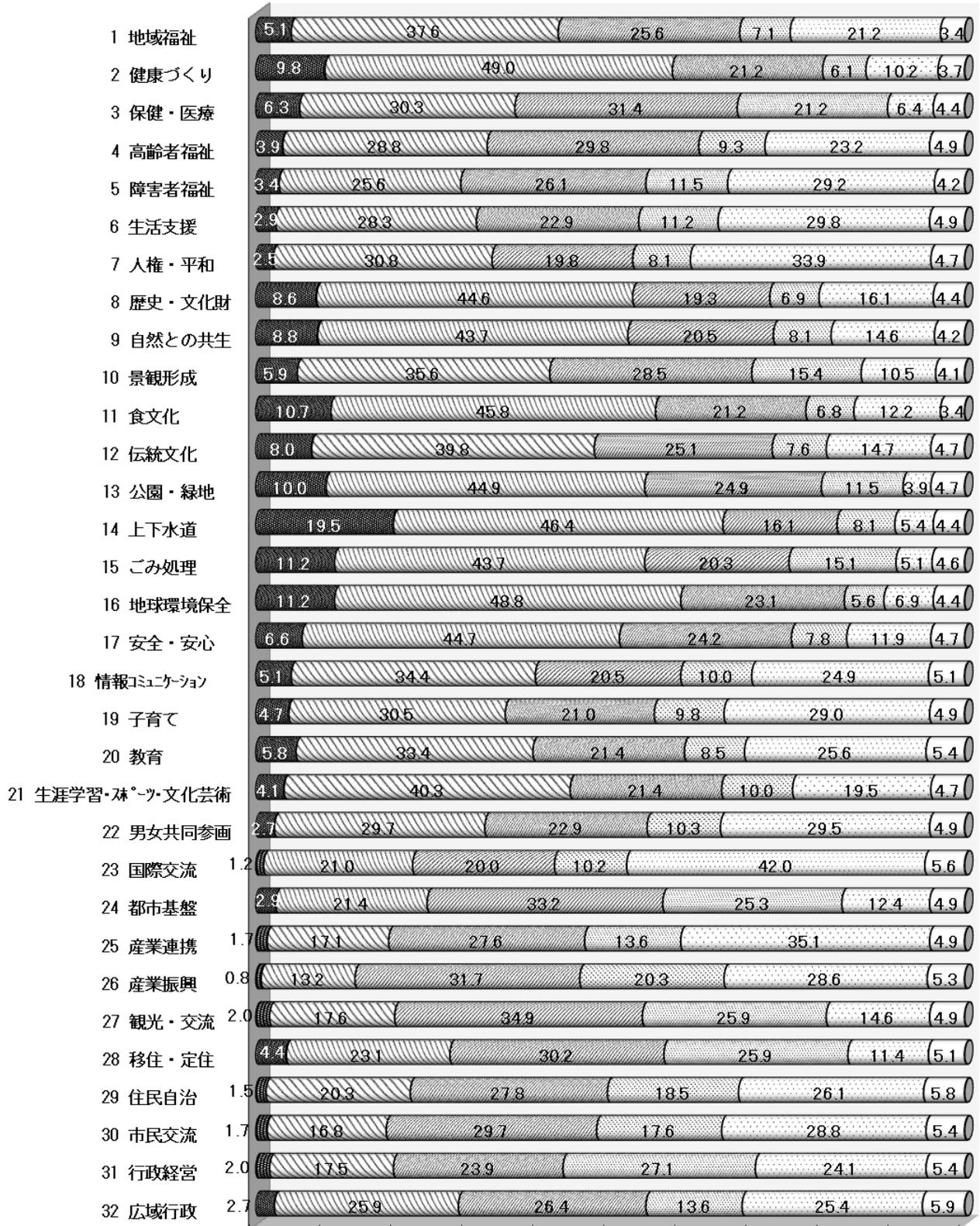
一方、“不満”の割合が増加しているのは「都市基盤(+4.7%)」などとなっている。

< 市政への満足度 >

■満足している □まあ満足している □あまり満足していない □満足していない □わからない □無回答

(n=652)

(%)



<満足度の平均スコア>

重要度と同様に、市政への満足度についても、32項目ごとに「満足している」に+10点、「まあ満足している」に+5点、「あまり満足していない」に-5点、「満足していない」に-10点の点数を与え、平均スコアを求めた。

平均スコアが最も高いのは、「上下水道(2.65)」である。次いで「地球環境保全(1.85)」、「健康づくり(1.76)」、「食文化(1.62)」、「歴史・文化財(1.43)」などの順となっている。

平均スコアが最も低いのは、「観光・交流(-3.25)」である。次いで「産業振興(-2.87)」、「都市基盤(-2.83)」、「行政経営(-2.83)」、「移住・定住(-2.51)」などの順となっている。また、32項目全体の平均スコアは-0.37であった。(前年度の平均スコアは、-0.83)

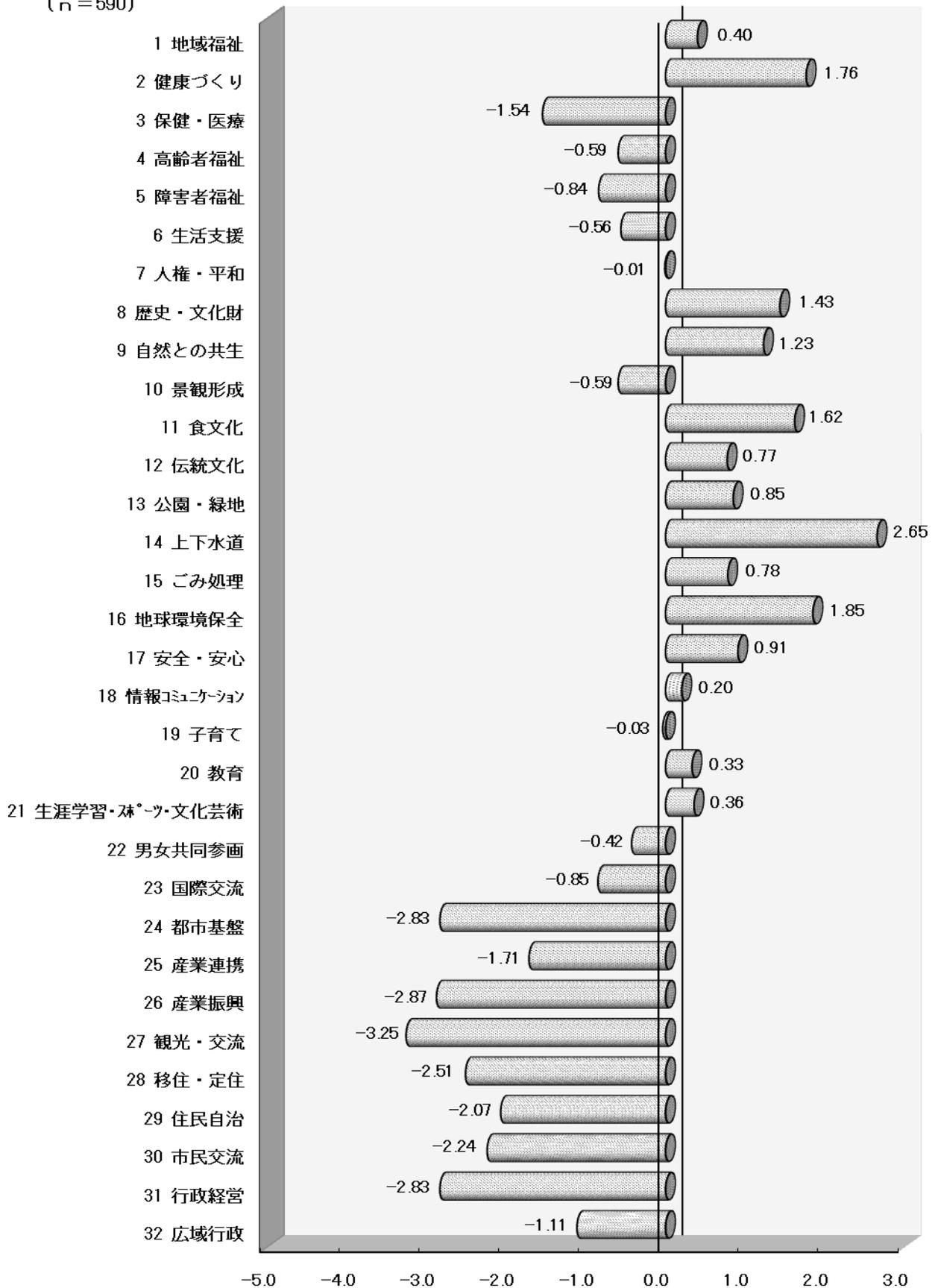
平成22年調査結果とのランキング比較(20頁参照)において、「上下水道(1位)」の変動はなかった。

ランキングが大幅に上昇したのは、「地域福祉(18位から11位)」、「生活支援(23位から18位)」などで、ランキングが大幅に下降したのは、「情報コミュニケーション(9位から14位)」である。

下位3項目「行政経営」、「産業振興」、「観光・交流」は、順位の変動はない。

<満足度の平均スコア>

(n = 590)



<満足度の平均スコアランキング>

ランク			項目	ポイント数		
H22 (今回)	順位 変動	H21 (前回)		H23 (今回)	H22 (前回)	差
1	→	1	14 上下水道	2.65 P	1.87 P	0.78
2	↑	3	16 地球環境保全	1.85 P	1.17 P	0.68
3	↑	6	2 健康づくり	1.76 P	0.60 P	1.16
4	→	4	11 食文化	1.62 P	1.04 P	0.58
5	↓	2	8 歴史・文化財	1.43 P	1.47 P	△ 0.04
6	↑	7	9 自然との共生	1.23 P	0.54 P	0.69
7	↓	5	17 安全・安心	0.91 P	0.74 P	0.17
8	↑	12	13 公園・緑地	0.85 P	0.09 P	0.76
9	↑	13	15 ごみ処理	0.78 P	-0.03 P	0.81
10	↑	11	12 伝統文化	0.77 P	0.15 P	0.62
11	↑	18	1 地域福祉	0.40 P	-1.01 P	1.41
12	↓	8	21 生涯学習・スポーツ・文化芸術	0.36 P	0.42 P	△ 0.06
13	↓	10	20 教育	0.33 P	0.18 P	0.15
14	↓	9	18 情報コミュニケーション	0.20 P	0.21 P	△ 0.01
15	↑	16	7 人権・平和	-0.01 P	-0.56 P	0.55
16	↓	14	19 子育て	-0.03 P	-0.38 P	0.35
17	↓	15	22 男女共同参画	-0.42 P	-0.38 P	△ 0.04
18	↑	23	6 生活支援	-0.56 P	-1.68 P	1.12
19	↑	21	4 高齢者福祉	-0.59 P	-1.27 P	0.68
20	↓	17	10 景観形成	-0.59 P	-0.68 P	0.09
21	↓	20	5 障害者福祉	-0.84 P	-1.24 P	0.40
22	↓	19	23 国際交流	-0.85 P	-1.04 P	0.19
23	↓	22	32 広域行政	-1.11 P	-1.57 P	0.46
24	→	24	3 保健・医療	-1.54 P	-1.92 P	0.38
25	↑	27	25 産業連携	-1.71 P	-2.29 P	0.58
26	→	26	29 住民自治	-2.07 P	-2.23 P	0.16
27	↑	28	30 市民交流	-2.24 P	-2.81 P	0.57
28	↑	29	28 移住・定住	-2.51 P	-3.12 P	0.61
29	↓	25	24 都市基盤	-2.83 P	-2.12 P	△ 0.71
30	→	30	31 行政経営	-2.83 P	-3.14 P	0.31
31	→	31	26 産業振興	-2.87 P	-3.67 P	0.80
32	→	32	27 観光・交流	-3.25 P	-3.90 P	0.65

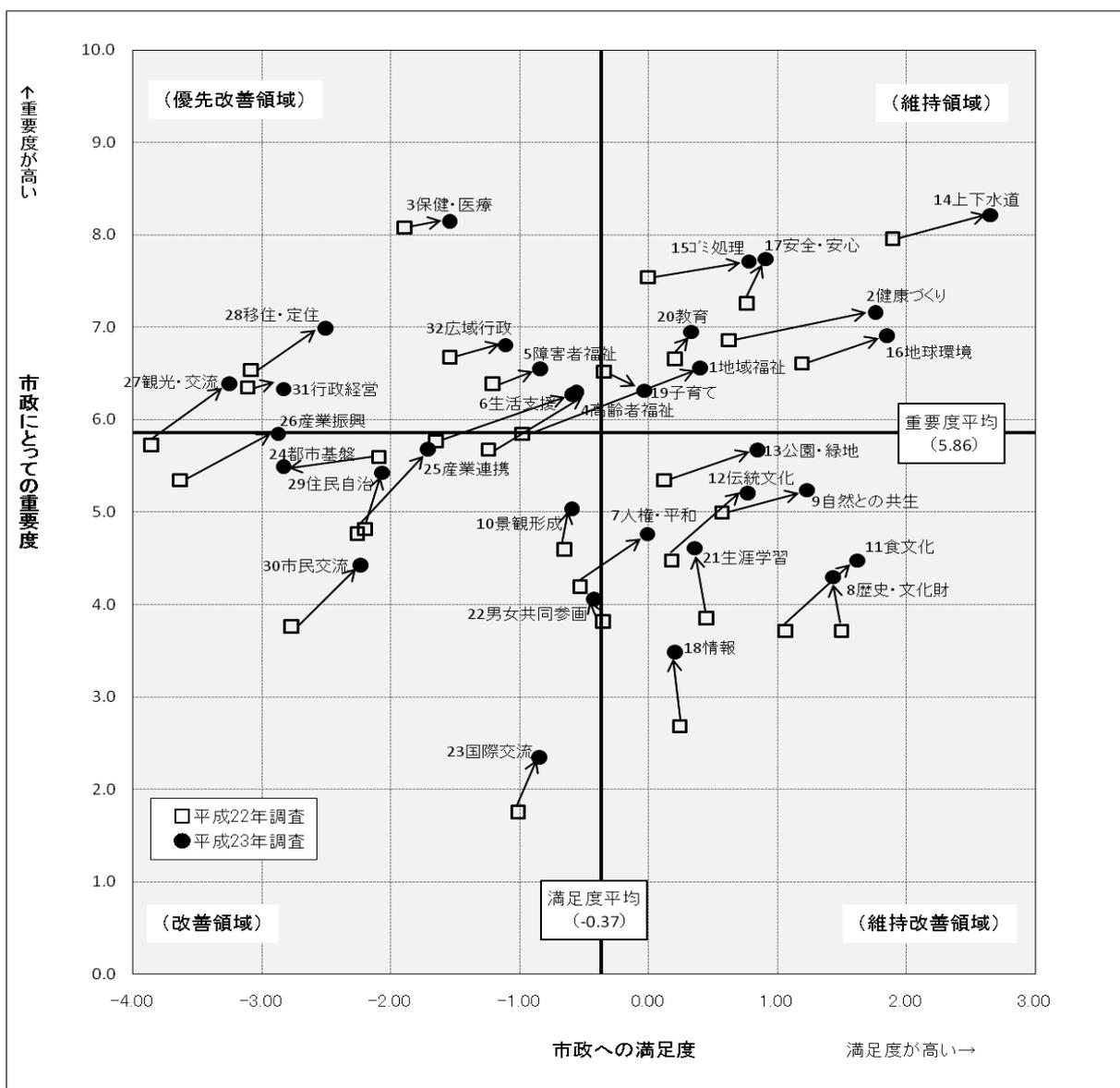
<重要度と満足度の相関>

32項目について、市政にとっての重要度の平均スコアと市政への満足度の平均スコアの相関を示した。

この図では、より左上にある項目ほど満足度が低く、かつ重要度が高いことになり、今後の市政の重点課題になるものと考えられる。

満足度が低く重要度が高い項目としては「保健・医療」、「移住・定住」、「行政経営」、「観光・交流」などがあげられる。

また、満足度が高く重要度も高い項目としては、「上下水道」、「安全・安心」、「ごみ処理」、「健康づくり」などがあげられる。



(3) 市政への要望

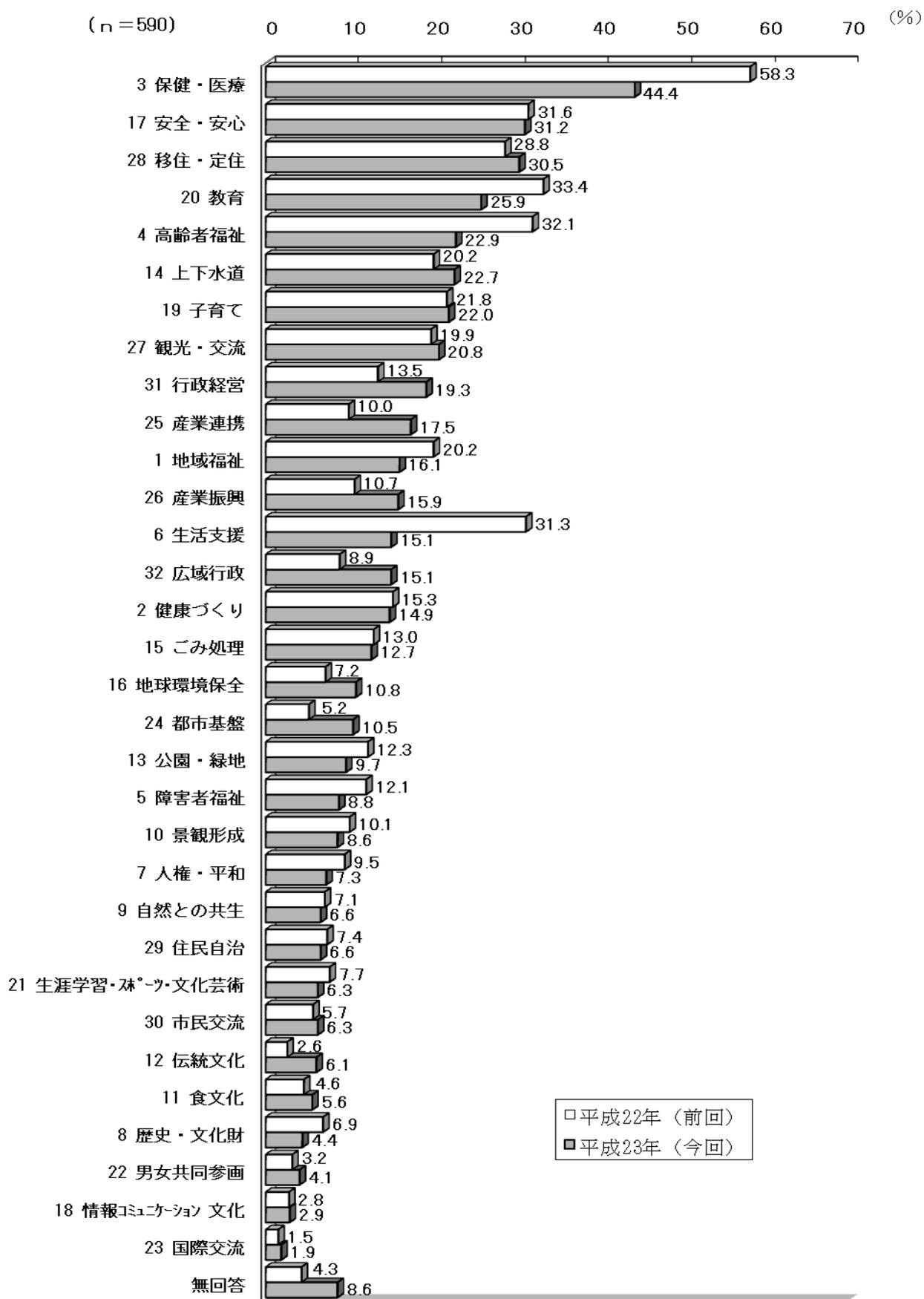
問 2-3 今後、千曲市がより暮らしやすい地域になるためには、問 2-2 に示した「総合計画に掲げた 32 の達成方針」のうち、どの項目が重要とお考えですか。1 から 32 までの項目の中から、特に重要と考える項目を 5 つ選び、下の枠の中に番号を記入してください。

特に重要だと思う施策については、昨年と同様に「保健・医療(44.4%)」が最も多かった。次いで「安全・安心(31.2%)」、「移住・定住(30.5%)」、「教育(25.9%)」、「高齢者福祉(22.9%)」、「上下水道(22.7%)」などの順になっている。

平成 22 年調査との比較において、増加しているのは「産業連携(+17.5%)」、「行政経営(+5.8%)」、「都市基盤(+5.3%)」、「広域行政(+4.1%)」などである。

一方、減少しているのは「生活支援(-16.2%)」、「保健・医療(-13.9%)」などである。

< 市政への要望 >



性別では、共に1位の「保健・医療」と「安全・安心」の2項目以外は、男女間で項目が異なり、市政に対する意識の違いがみられる。

年代別では、10代は他の年齢層と違いが見られる。10代以外のすべての年代層で「保健・医療」が1位で「安全・安心」、「移住・定住」が共通して高い割合になっている。また、20代、30代では「教育」、「子育て」の割合が高くなっている。

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位		
全体 (n=590)	保健・ 医療 (44.4%)	安全・ 安心 (31.2%)	移住・ 定住 (30.5%)	教育 (25.9%)	高齢者 福祉 (22.9%)		
男性 (n=262)	保健・ 医療 (38.5%)	安全・ 安心 (29.0%)	行政 経営 (27.1%)	産業 連携 (24.8%)	移住・ 定住 (21.4%)		
女性 (n=322)	保健・ 医療 (48.8%)	移住・ 定住 (35.7%)	安全・ 安心 (33.2%)	教育 (28.0%)	上下 水道 (23.6%)		
18・19 歳 (n=6)	自然と の共生 (33.3%)	都市 基盤 (33.3%)	行政 経営 (33.3%)	保健・ 医療 (16.7%)	高齢者 福祉 (16.7%)	移住・ 定住 (16.7%)	子育て (16.7%)
20代 (n=49)	保健・ 医療 (42.9%)	移住・ 定住 (42.0%)	安全・ 安心 (34.7%)	子育て (30.6%)	教育 (26.5%)	観光・ 交流 (26.5%)	産業 連携 (24.5%)
30代 (n=79)	保健 ・医療 (51.9%)	教育 (45.6%)	子育て (41.8%)	移住・ 定住 (36.7%)	安全・ 安心 (27.8%)		
40代 (n=91)	保健・ 医療 (53.8%)	安全 安心 (34.1%)	移住・ 定住 (30.8%)	教育 (27.5%)	高齢者 福祉 (26.4%)		
50代 (n=100)	保健・ 医療 (47.0%)	安全・ 安心 (36.0%)	上下 水道 (27.0%)	移住・ 定住 (27.0%)	観光・ 交流 (25.0%)	行政 経営 (23.0%)	
60代 (n=150)	保健・ 医療 (38.7%)	安全・ 安心 (31.3%)	移住・ 定住 (31.3%)	上下 水道 (30.0%)	行政 経営 (24.7%)	高齢者 福祉 (24.0%)	子育て (24.0%)
70歳以 上 (n=109)	保健・ 医療 (37.6%)	安全・ 安心 (27.5%)	高齢者 福祉 (26.6%)	上下 水道 (24.8%)	移住・ 定住 (22.9%)		

(4) 市政に対する不満

問 2-4 現状で、特に不満を感じている項目を問 2-3 同様 5 つ選び、下の枠の中に番号を記入してください。

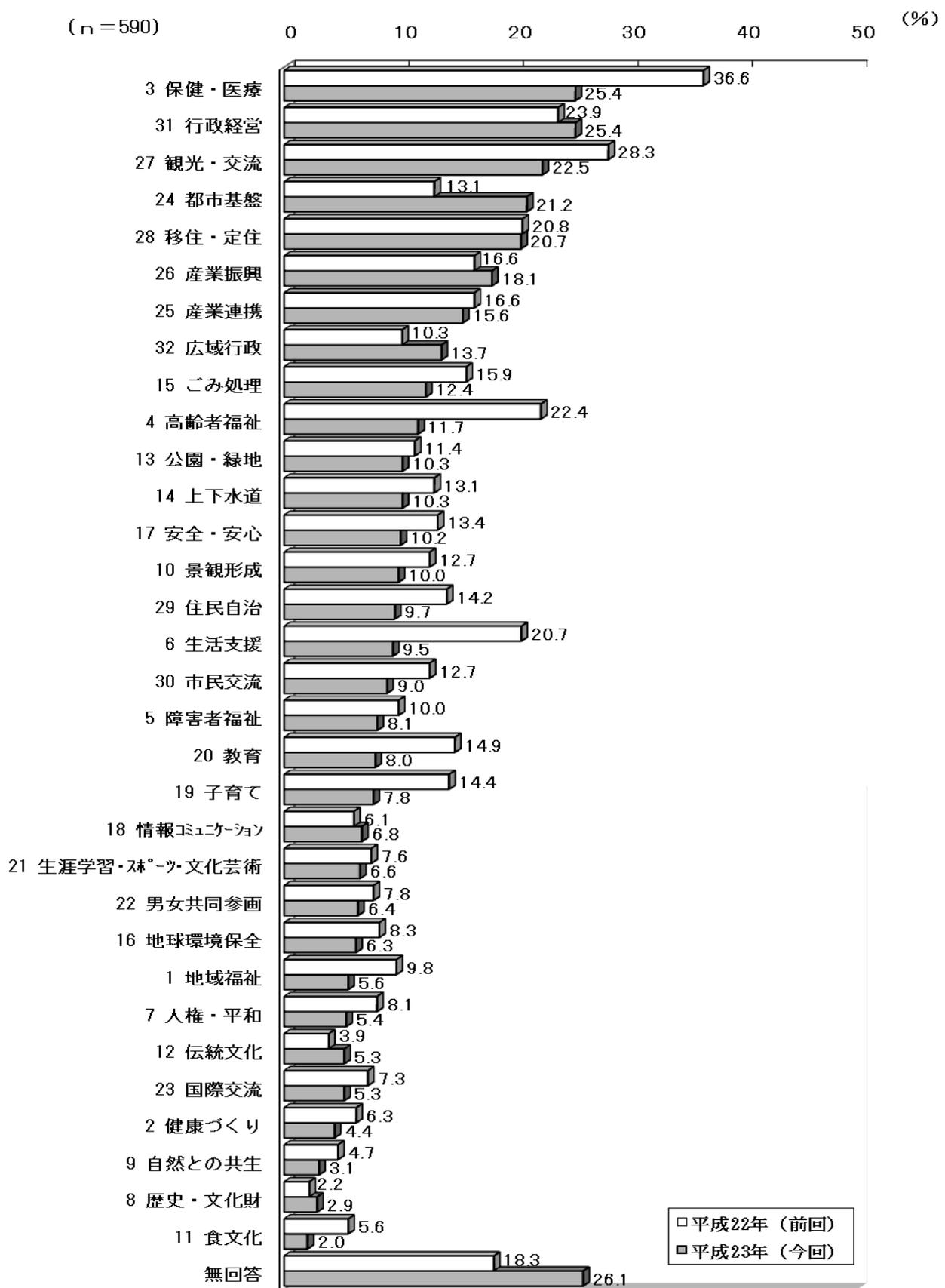
特に不満を感じている施策については、昨年と同様「保健・医療(25.4%)」、「行政経営(25.4%)」が最も多く、次いで「観光・交流(22.5%)」、「都市基盤(21.2%)」、「移住・定住(20.7%)」、「産業振興(18.1%)」の順となっている。

平成 22 年調査結果と比較すると、大幅に増加しているのは「都市基盤(+8.1%)」、「広域行政(+3.4%)」である。

一方、大幅に減少しているのは「保健・医療(-11.2%)」、「生活支援(-11.2%)」、「高齢者福祉(-10.7%)」などとなっている。

< 市政に対する不満 >

(n=590)



性別では、上位4項目は順位では異なっているが同じ項目となっている。

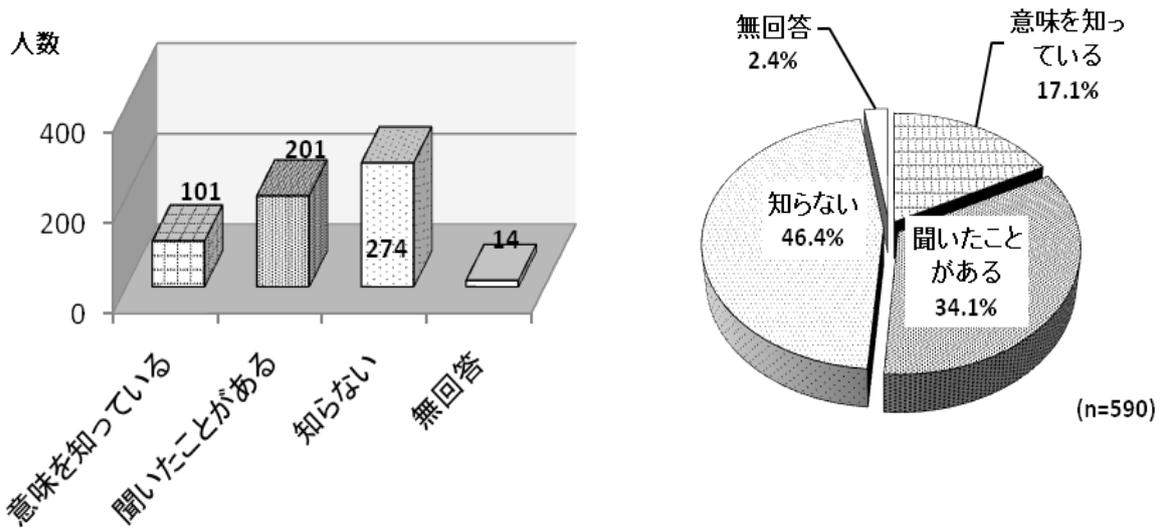
年齢別では、10代では「自然との共生」、「景観形成」、「公園緑地」、「行政経営」が第1位で自然環境、景観等都市空間の形成・環境に対する関心の高さと、行政に対する関心の強さも見られる。20代では「移住・定住」、30・40代では「保健・医療」、50・60代では「行政経営」、70歳以上では「都市基盤」が第1位となっているが、上位5項目については各年代とも共通している。

	1位	2位	3位	4位	5位		
全体 (n=590)	保健・ 医療 (25.4%)	行政 経営 (25.4%)	観光・ 交流 (22.5%)	都市 基盤 (21.2%)	移住・ 定住 (20.7%)		
男性 (n=262)	行政 経営 (36.2%)	観光・ 交流 (24.8%)	保健・ 医療 (23.7%)	都市 基盤 (22.1%)	産業 振興 (21.8%)		
女性 (n=322)	保健・ 医療 (40.5%)	行政 経営 (24.9%)	観光・ 交流 (22.2%)	都市 基盤 (21.3%)	移住・ 定住 (18.8%)		
18・19 歳 (n=6)	自然との 共生 (33.3%)	景観 形成 (33.3%)	公園・ 緑地 (33.3%)	行政 経営 (33.3%)	保健・ 医療 (16.7%)	都市 基盤 (16.7%)	産業 連携 (16.7%)
20代 (n=49)	移住・ 定住 (28.0%)	都市 基盤 (26.5%)	行政 経営 (26.5%)	観光 ・交流 (24.5%)	産業 振興 (20.4%)	保健・ 医療 (18.4%)	広域 行政 (18.4%)
30代 (n=79)	保健・ 医療 (36.7%)	観光・ 交流 (30.4%)	移住・ 定住 (29.1%)	行政 経営 (25.3%)	都市 基盤 (21.5%)		
40代 (n=91)	保健・ 医療 (36.3%)	行政 経営 (31.3%)	都市 基盤 (30.8%)	観光・ 交流 (29.7%)	産業 振興 (26.4%)		
50代 (n=100)	行政 経営 (33.0%)	保健・ 医療 (29.0%)	観光・ 交流 (26.0%)	移住・ 定住 (21.0%)	高齢者 福祉 (21.0%)	都市 基盤 (20.0%)	
60代 (n=150)	行政 経営 (26.7%)	保健・ 医療 (24.7%)	都市 基盤 (22.0%)	産業 振興 (21.3%)	移住・ 定住 (19.3%)		
70歳以 上 (n=109)	都市 基盤 (14.7%)	観光・ 交流 (14.7%)	ゴミ 処理 (13.8%)	行政 経営 (11.9%)	移住・ 定住 (11.9%)	産業 振興 (11.0%)	保健・ 医療 (10.1%)

(5) 「協働のまちづくり」について

問 3-1 「協働」という言葉を以前から知っていましたか。

「協働」については、「知らない(46.4%)」、「聞いたことがある(34.1%)」、「意味を知っている(17.1%)」となった。



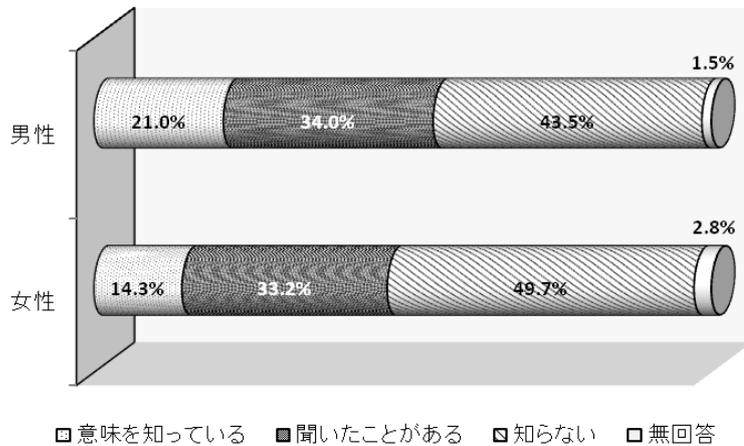
【参考】

協働とは

地域における目標の達成や課題の解決を図るため、市民と行政が対等な立場で一緒に考え、一緒に行動すること。

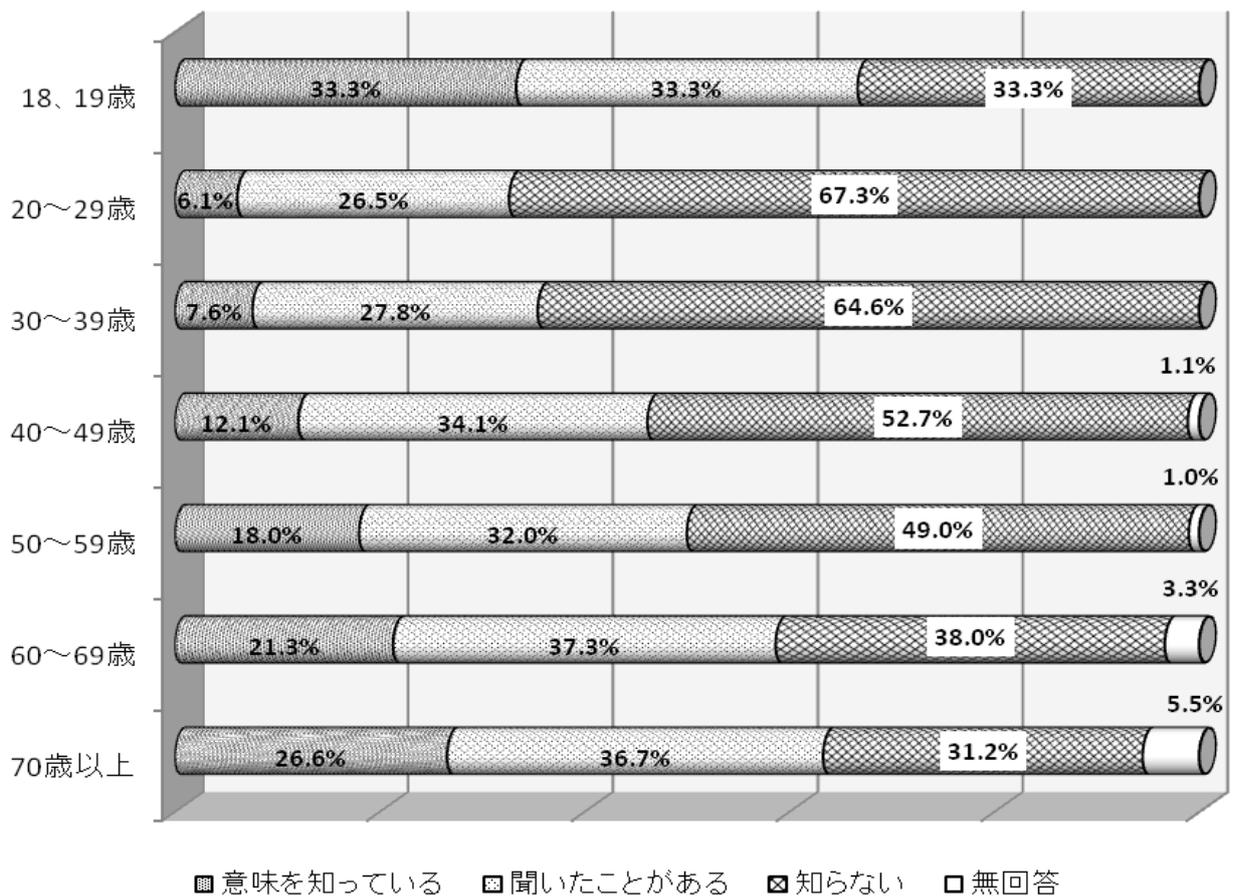
【性別】

「協働」について「意味を知っている」の男性が21.0%、女性が14.3%となった。
他の2項目については男女ともほぼ同じ割合になった。



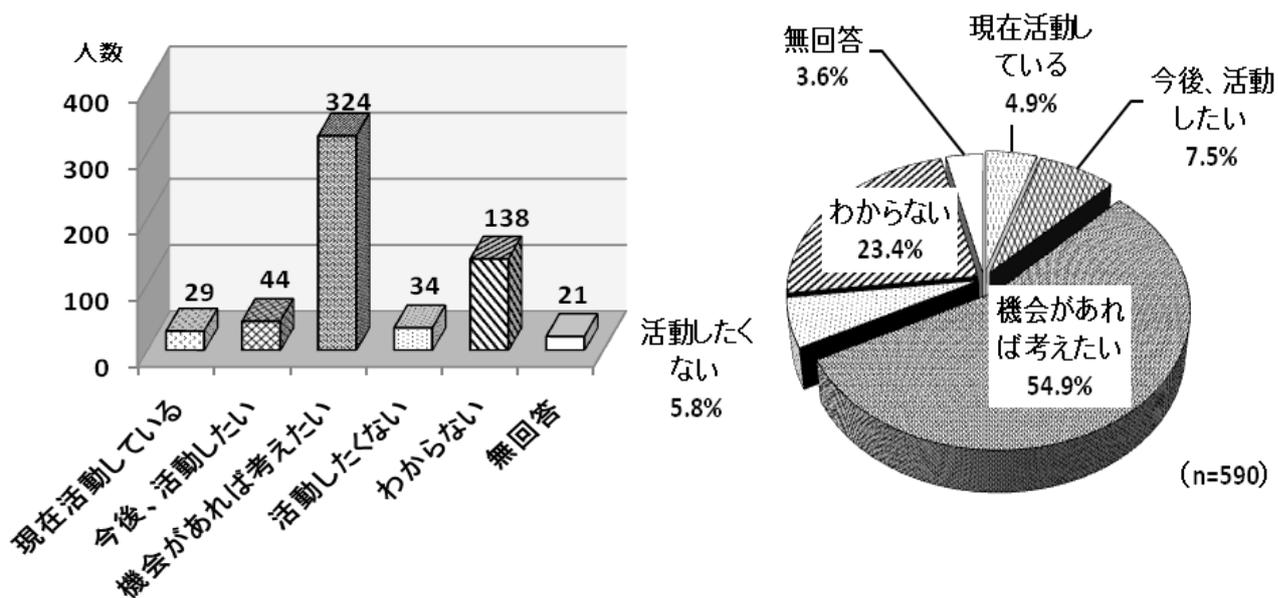
【年齢別】

「協働」について、高い年代になるほど「意味を知っている」、「聞いたことがある」の割合が高くなっているが10代を除く「50～59歳」以下のすべての年代層で「知らない」の比率が半数以上を占めており、「協働の意味」に対する理解度が全体的に低いことがうかがえる。

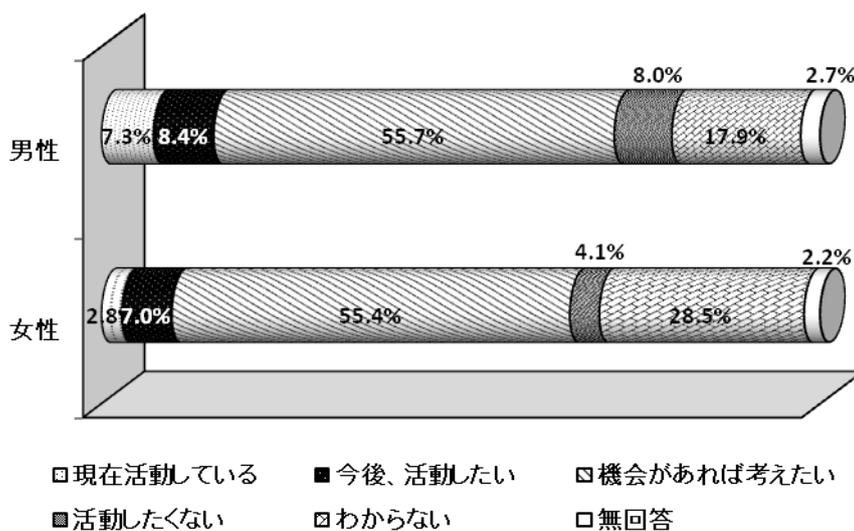


問 3-2 市民と行政と一緒に考え、一緒に行動する「協働のまちづくり」の実現に向け、あなたはなにか活動をしたいと思いませんか。

活動については「機会があれば考えたい(54.9%)」の割合が高く、「わからない(23.4%)」、「今後活動したい(7.5%)」、「活動したくない(5.8%)」、「現在活動している(4.9%)」となった。

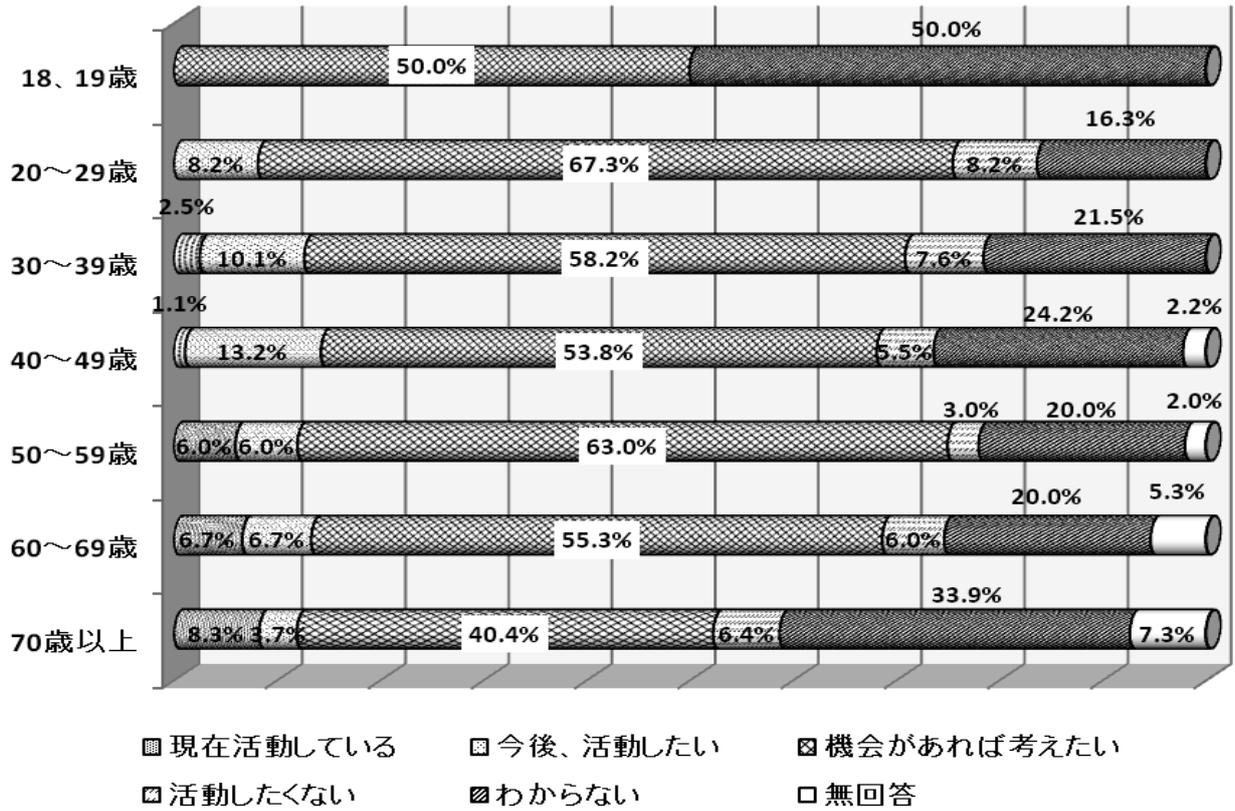


【性別】 男性、女性とも「機会があれば考えたい」の割合が5割となった。



【年齢別】

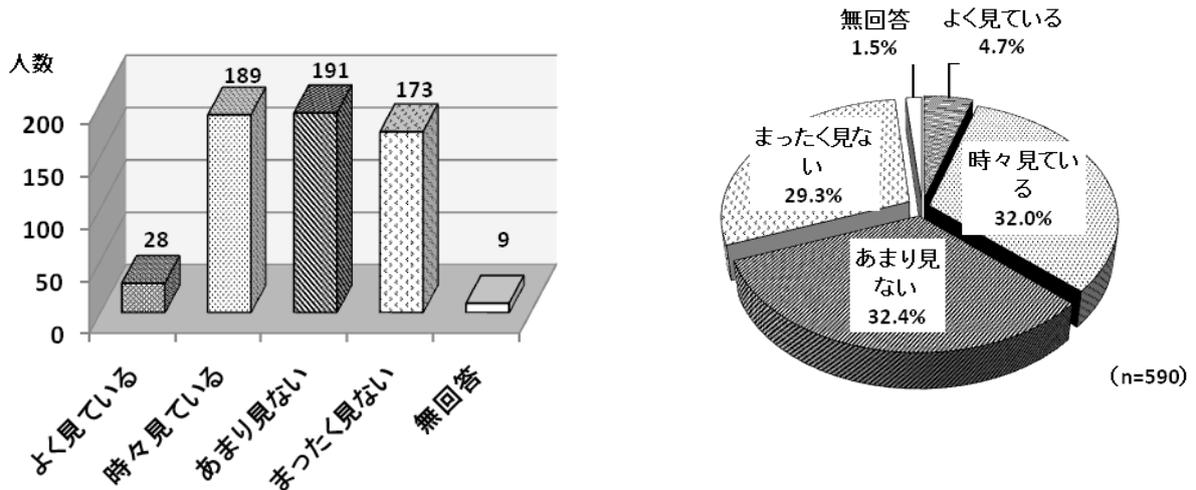
各年代とも「機会があれば考えたい」の割合が高く、70歳以上の回答者を除く各年代で、5割以上となった。



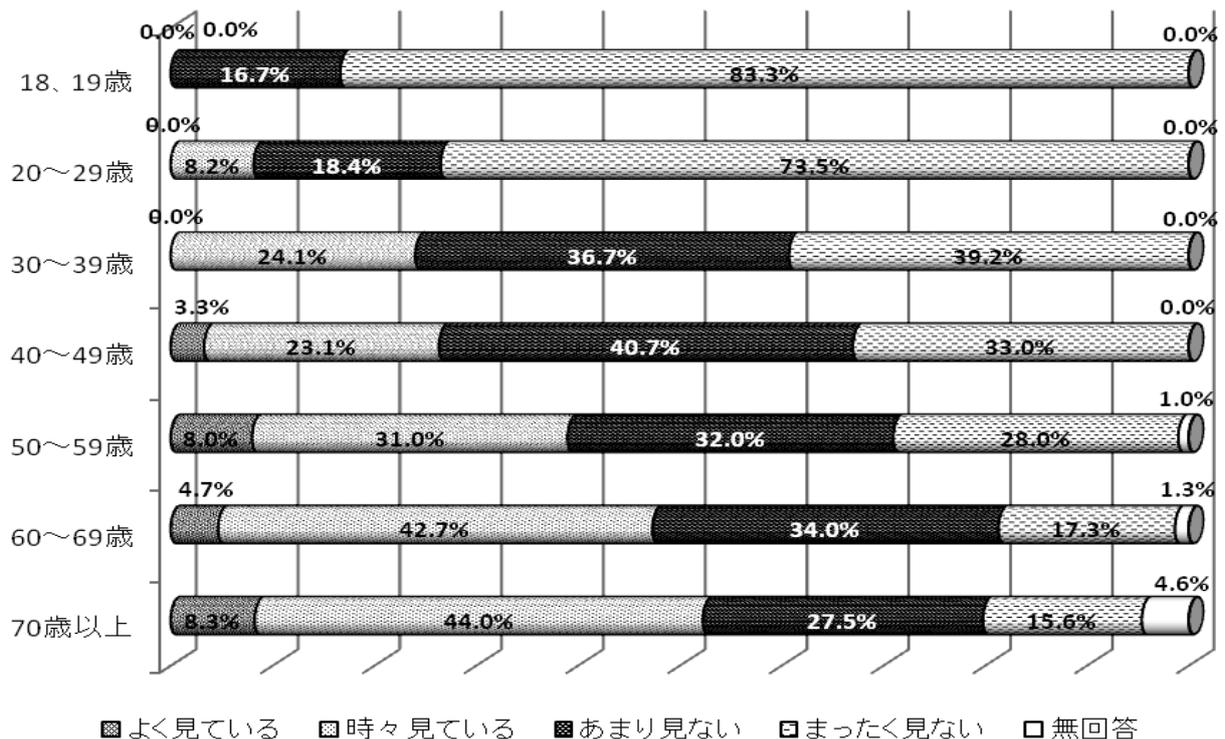
(6) 「議会本会議」について

問 4-1 議会本会議の様子や審議結果などをご覧になっていますか。

議会の様子や審議結果などについては、「あまり見ない(32.4%)」、「時々見ている(32.0%)」、「まったく見ない(29.3%)」、「よく見ている(4.7%)」の順となったが、上位3項目は約3割とほぼ同じ割合となった。

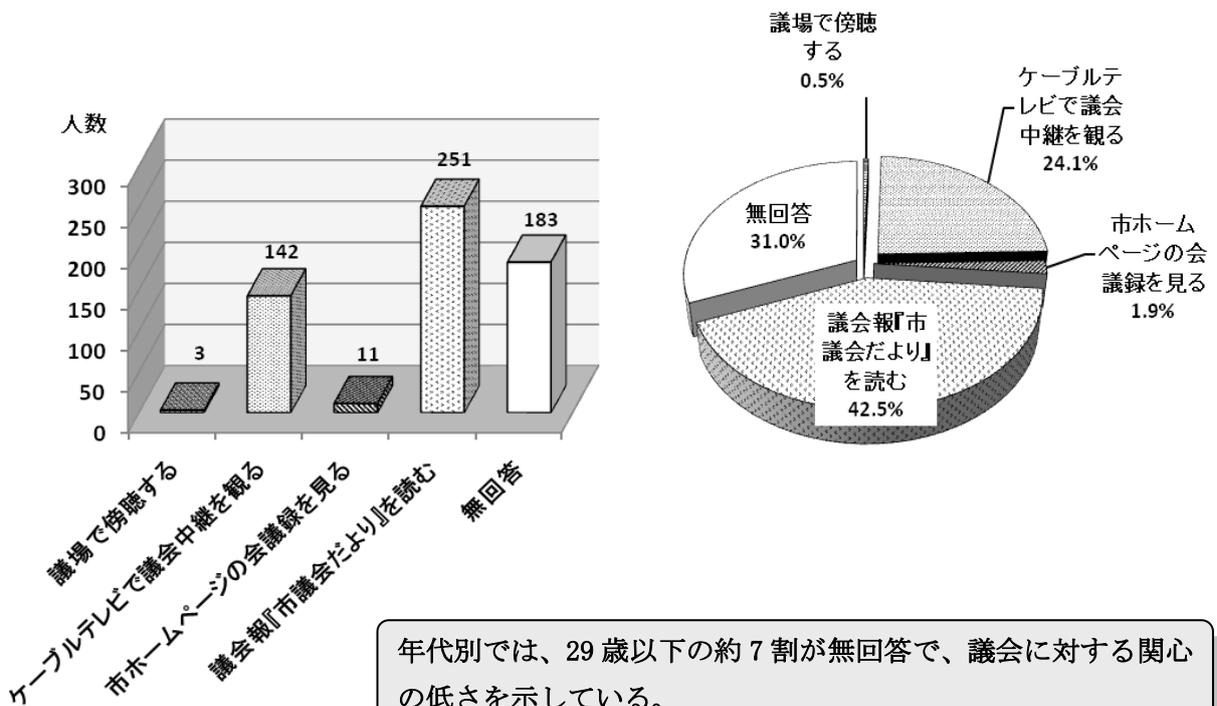


年代別で見ると、「時々見ている」「よく見ている」の“見ている”が70歳以上では52.3%と高く、次に60代の47.4%、50代の39%となっている。高い年代になるほど割合が高くなっている。

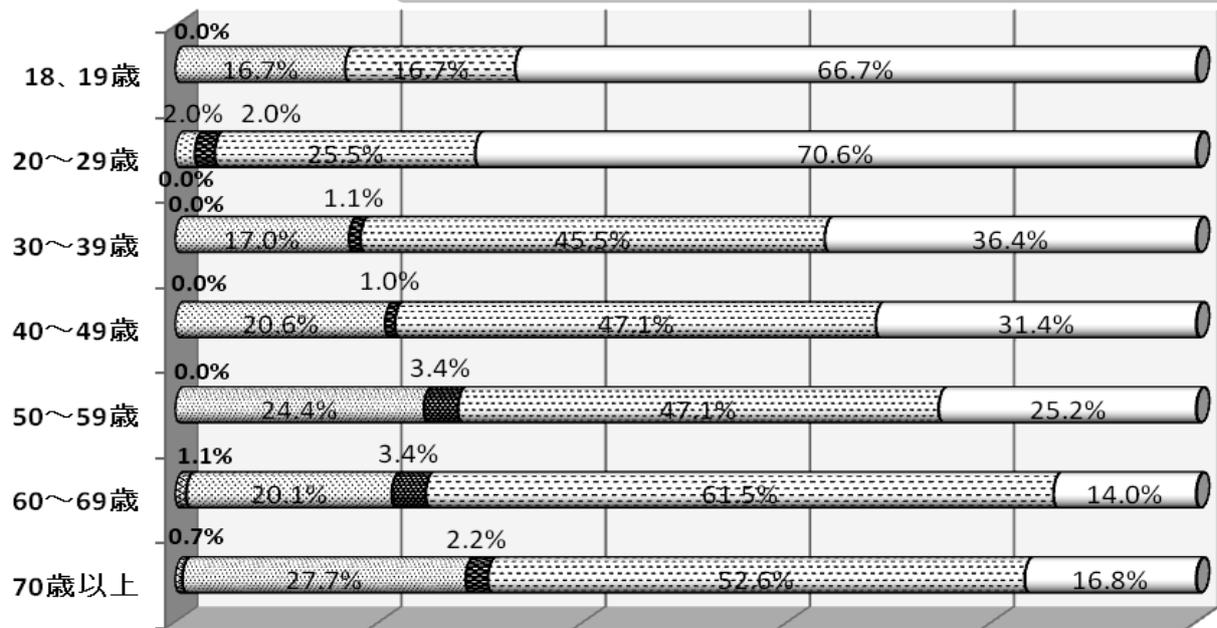


問4-2 問4-1で「1 よく見ている」、「2 時々見ている」、「3 あまり見ない」を選んだ方は、どのような方法でご覧になっていますか。（複数回答可）

議会、審議結果の情報を得るための方法として、回答者の約9割の人が『市議会だより』(42.5%)、『ケーブルテレビ』(24.1%)の2つの方法で得ている結果となった。



年代別では、29歳以下の約7割が無回答で、議会に対する関心の低さを示している。



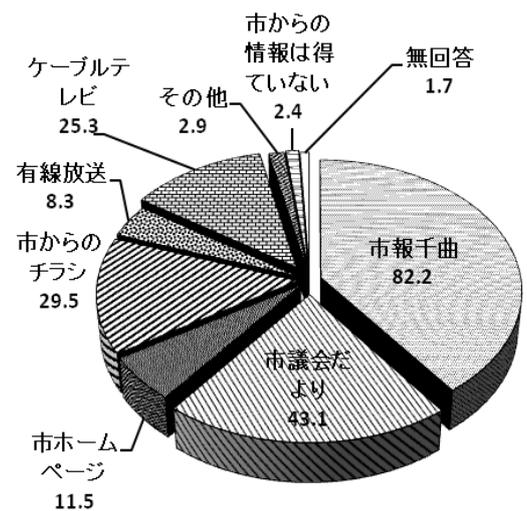
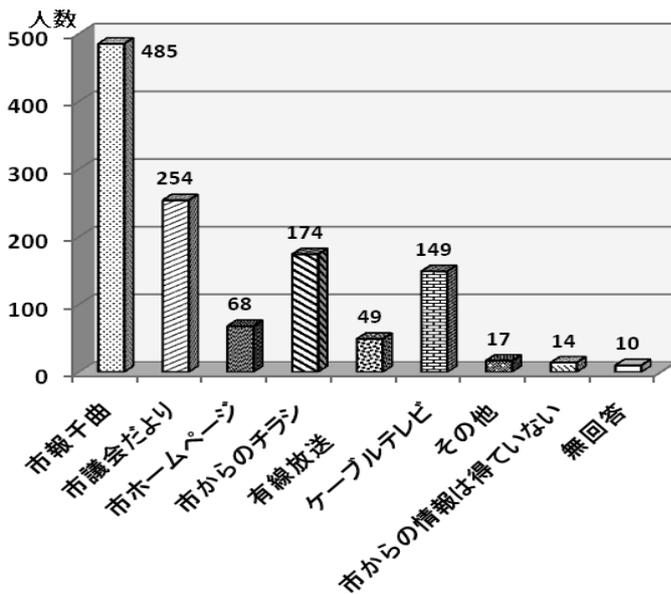
- 議場で傍聴する
- ケーブルテレビで議会中継を観る
- 市ホームページの会議録を見る
- 議会報『市議会だより』を読む
- 無回答

(7) 市の広報活動

<千曲市の情報入手方法>

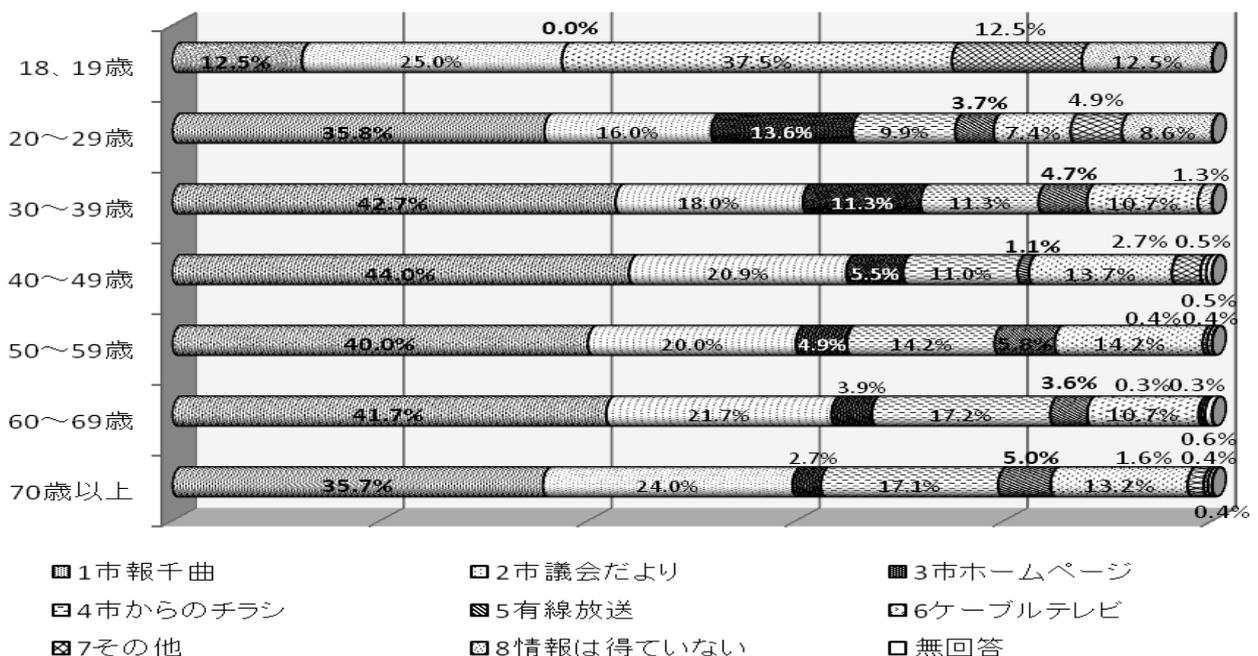
問 5-1 千曲市からの情報はどこから得ていますか（複数回答可）

千曲市からの情報は、「市報千曲」が 82.2%と 8 割を超えている。次いで「市議会だより（43.1%）」、「市からのチラシ（29.5%）」の順になっている。



年齢別で見ると、全ての年代で「市報千曲」が最も多い。「市議会だより」及び「市からのチラシ」は年齢が上がるほど多くなっている。

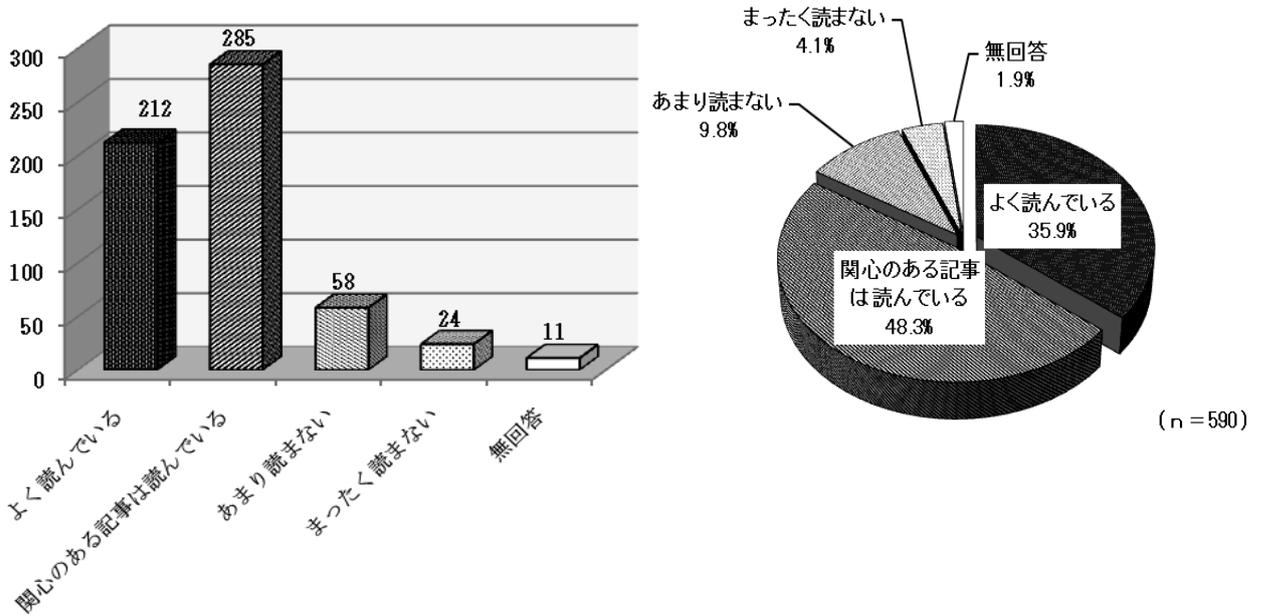
平成 22 年調査結果と比較すると、最も増えたのは「市ホームページ(+3.3%)」である。一方、最も減ったのは「市からのチラシ(-3.6%)」である。



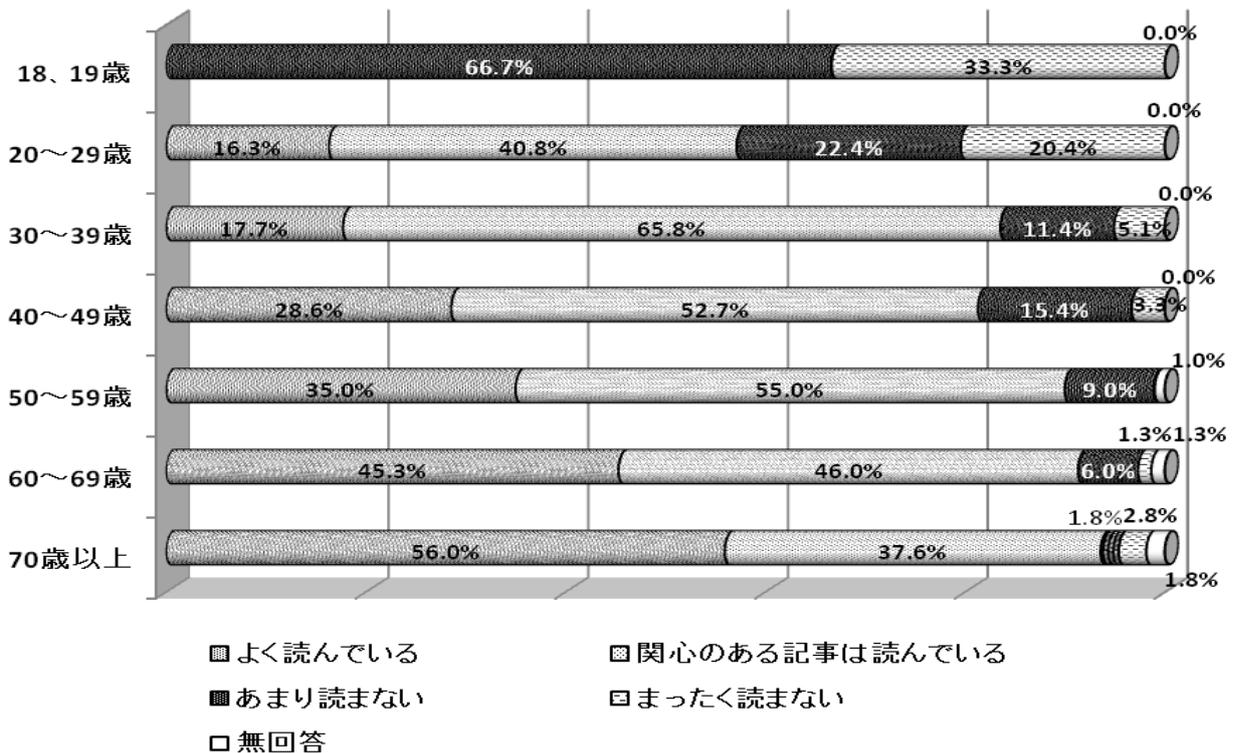
<市報千曲>

問 5-2 千曲市の広報紙『市報千曲』は読んでいますか。

『市報千曲』は、「よく読んでいる」が35.9%、「関心のある記事は読んでいる」が48.3%、「あまり読まない」が9.8%、「まったく読まない」が4.1%となっている。



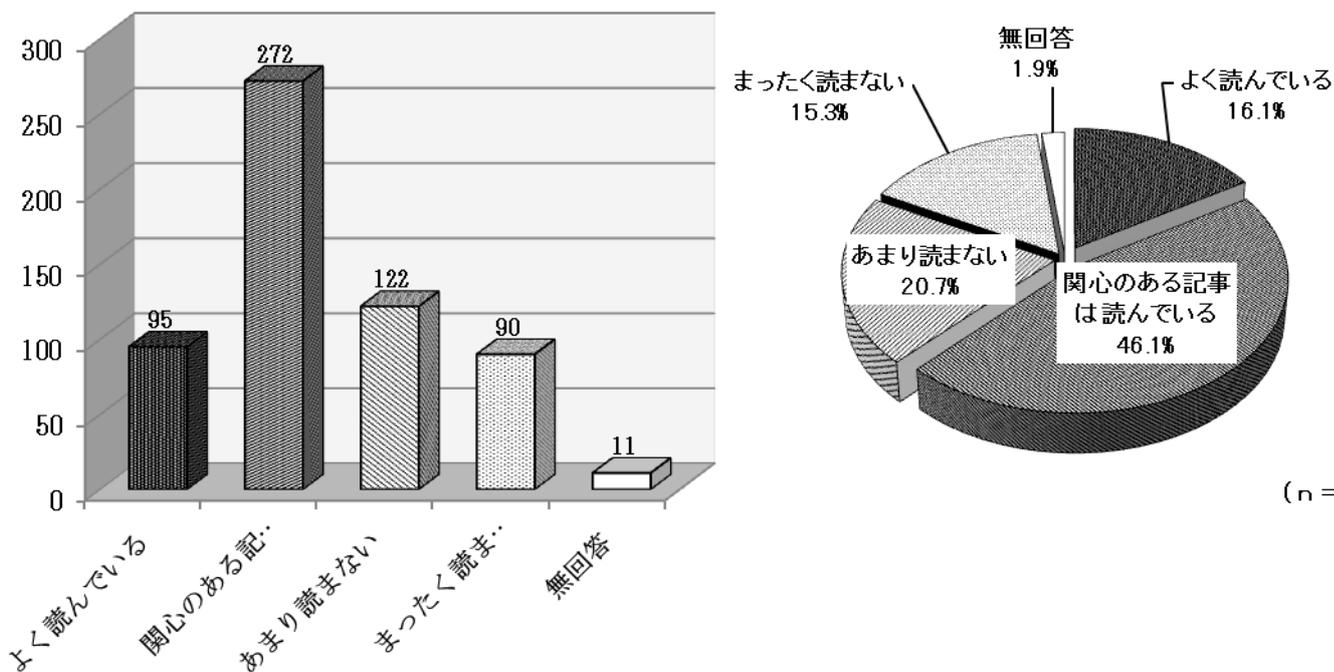
年齢別では、「よく読んでいる」は年齢が上がるほど多くなっている。「よく読んでいる」と「関心のある記事は読んでいる」の合計は「30～39歳」以上のすべての年齢層で8割を超えているが、29歳以下の若年層での関心の低さを示している。



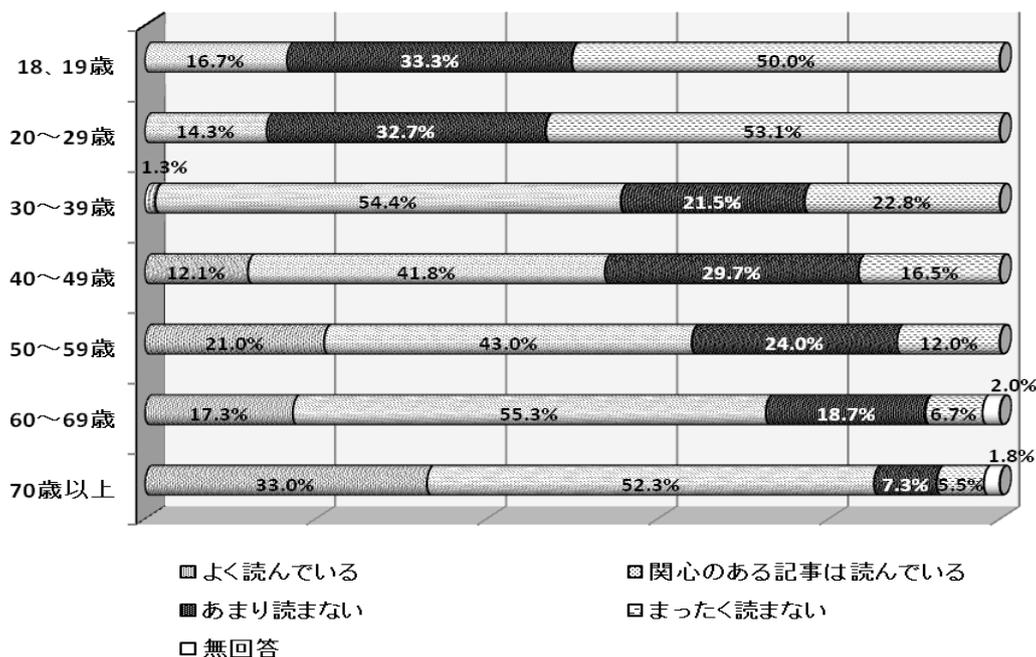
<市議会だより>

問 5-3 千曲市の議会報『市議会だより』は読んでいますか。

『市議会だより』は、「よく読んでいる」が 16.1%、「関心のある記事は読んでいる」が 46.1%、「あまり読まない」が 20.7%、「まったく読まない」が 15.3%となっている。



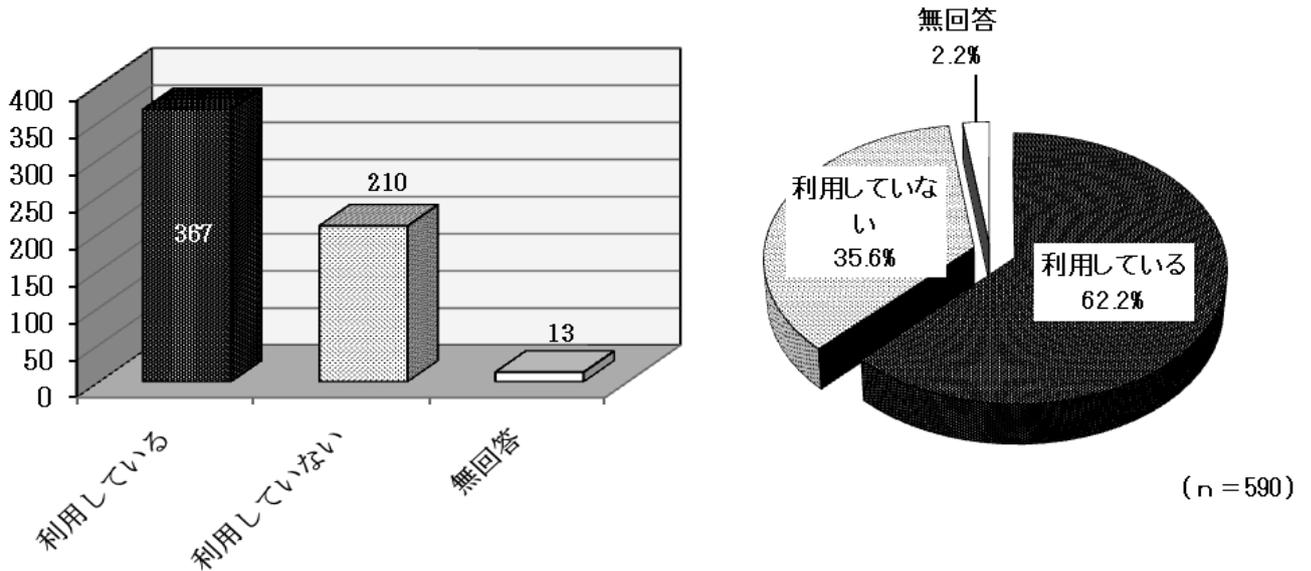
年齢別では、「よく読んでいる」と「関心のある記事は読んでいる」の2つを合わせた“読んでいる”は年齢が上がるほど多くなっている。「あまり読まない」と「まったく読まない」の2つを合わせた“読まない”は29歳以下の年齢層で8割を超えており、ここでも若年層の関心の低さがうかがえる。



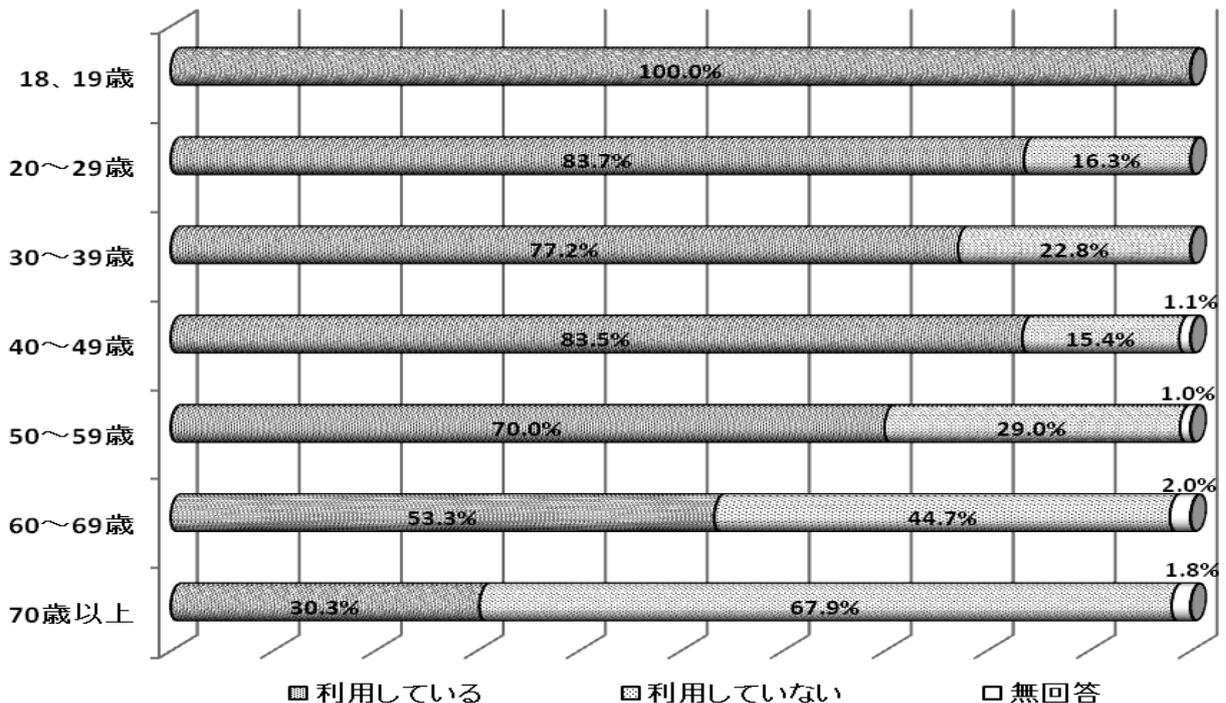
<インターネット>

問 5-4 あなた（家族を含めて）は、インターネットを利用していますか。

家族を含めたインターネットの利用は、「利用している」が 62.2%、「利用していない」が 35.6%となっている。平成 22 年調査結果に比べて「利用している」は 4.7%増え、「利用していない」は 4.9%減っている。



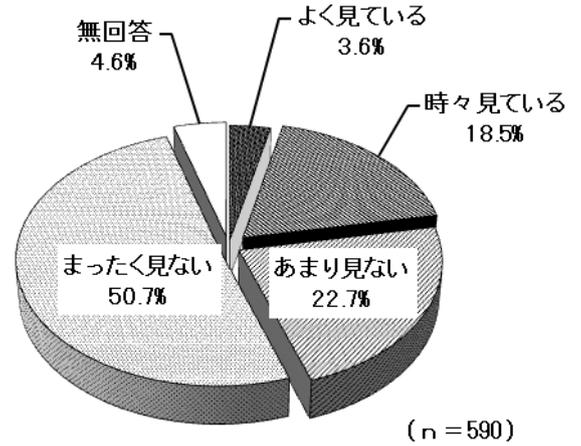
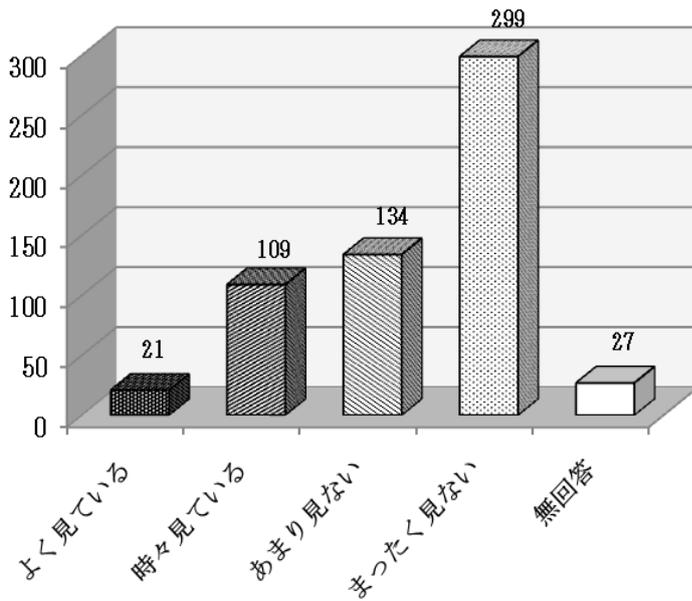
年齢別では、「利用している」が「50～59歳」より若い各年齢層とも7割以上となっている。「60～69歳」でも5割以上が、「70歳以上」でも3割の人が利用している。



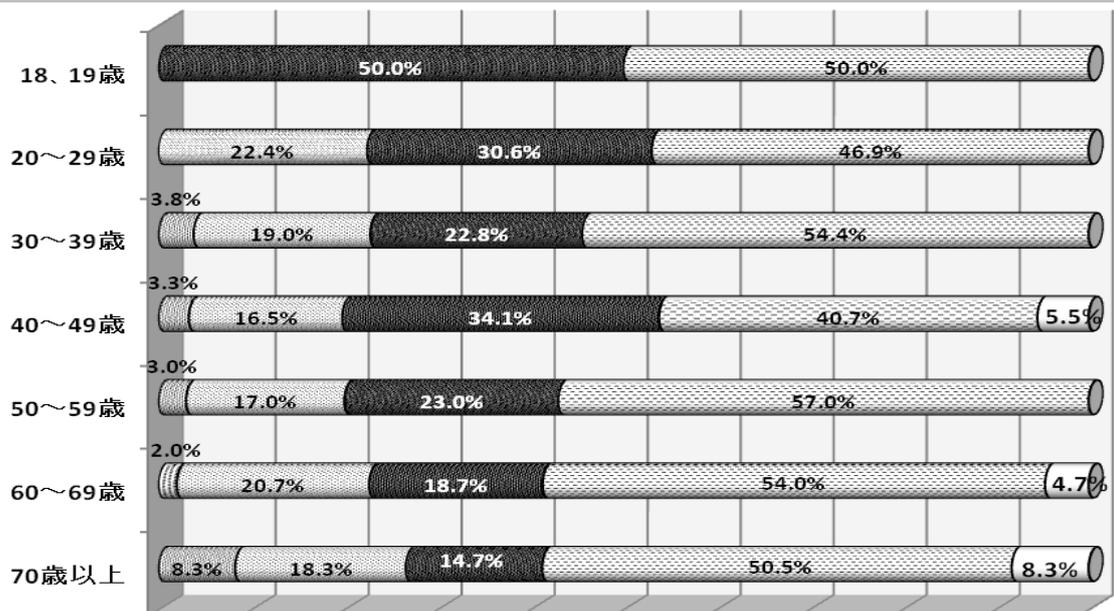
<千曲市のホームページ>

問 5-5 千曲市のホームページは見ていますか。

千曲市のホームページは、「よく見ている」が3.6%、「時々見ている」が18.5%、「あまり見ない」が22.7%、「まったく見ない」が50.7%となっている。



年齢別では、「よく見ている」と「時々見ている」の2つを合わせた“見ている”は「70歳以上(26.6%)」が最も多く、次いで「30～39歳(22.8%)」、「60～69歳(22.7%)」の順となっている。「あまり見ない」と「まったく見ない」の2つを合わせた“見ない”は「18・19歳(100%)」が最も多く、次いで、「50～59歳(80.0%)」、「20～29歳(77.5%)」などの順となっているがすべての年齢層で7割以上を占めている。

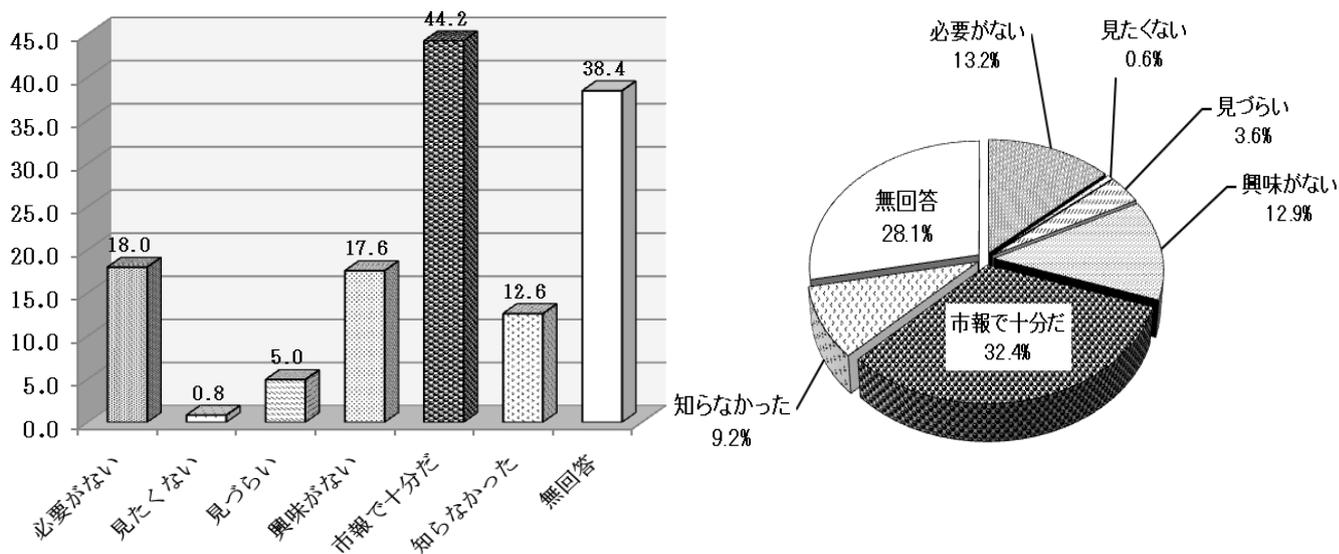


■よく見ている □時々見ている ■あまり見ない □まったく見ない □無回答

<千曲市のホームページを見ない理由>

問5-6 問5-5で「3 あまり見ない」、「まったく見ない」を選んだ方は、その理由をお聞かせください。（複数回答可）

千曲市のホームページを見ない理由は、「市報で十分」が32.4%、「必要がない」が13.2%、「興味がない」が12.9%、「知らなかった」が9.2%となっている。



年齢別では、最も多い理由として「市報で十分」が、「70代以上(42.9%)」、「60～69歳(36.9%)」、「50～59歳(37.5%)」、「40～49歳(28.4%)」である。一方、最も多い理由が「興味がない」とした年代は、「18・19歳(38.5%)」、「30～39歳(35.1%)」、「20～29歳(29.7%)」である。各年代層とも「知らなかった」が1割近くいることもうかがえる。

